

令和4年度

# 履修科目ガイド

作業療法学科

【1～3年】

リハビリテーションカレッジ島根

教育内容	授業科目	単 位	履修時間	1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	心理学	2	30		30							
	日本語表現	2	30	30								
	人間関係学	2	30		30							
	コミュニケーション論	2	30	30								
	統計学	2	30	30								
	生物学	2	30	30								
	物理学	2	30	15	15							
	保健体育(実技)	1	45		45							
	英会話	2	30	30								
	地域貢献活動論	1	15		15							
	18単位/ 10科目 合計	18	300	210	90	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	4	60	30	30							
	解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	4	60	30	30							
	解剖学Ⅲ	1	15					15				
	生理学	4	60	30	30							
	臨床生理学	1	15					15				
	基礎運動学	4	60	30	30							
	人間発達学	2	30		30							
		20単位/ 7科目 合計	20	300	120	150	0	0	30	0	0	0
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	2	30			15	15				
		病理学	1	15			15					
内科学		4	60			30	30					
老年学		1	15				15					
整形外科		4	60			30	30					
神経内科学		2	30			15	15					
小児科学		1	15				15					
精神医学		2	30			15	15					
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)		4	60			30	30					
救命医学		2	30			15	15					
	23単位/ 10科目 合計	23	345	0	0	165	180	0	0	0	0	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	30	15	15							
	社会保障学	2	30					30				
		4単位/ 2科目 合計	4	60	15	15	0	0	30	0	0	0
基礎作業療法学	作業療法研究法	2	30					30				
	作業技術学	4	60	30	30							
	作業分析学	2	30			30						
	地域文化学(和紙)	1	15		15							
		9単位/ 4科目 合計	9	135	30	45	30	0	30	0	0	0
	作業療法管理学	作業療法管理運営学	2	30					30			
			2単位/ 1科目 合計	2	30	0	0	0	0	30	0	0
	作業療法評価学	作業療法評価学	3	45	30	15						
		中枢神経障害評価技術学	4	60			30	30				
		精神障害評価技術学	4	60			30	30				
発達障害評価技術学		2	30				30					
高次神経障害評価技術学		2	30				30					
関節運動技術学		4	60			30	30					
体表解剖技術学		4	60			30	30					
	23単位/ 7科目 合計	23	345	30	15	120	180	0	0	0	0	
作業療法治療学	作業療法理論	2	30					30				
	身体障害作業療法学概論	2	30	15	15							
	精神障害作業療法学概論	2	30	15	15							
	発達障害作業療法学概論	2	30			30						
	高次神経障害作業療法学概論	2	30			30						
	中枢神経障害作業療法学各論	3	45					30	15			
	運動器障害作業療法学各論	3	45					30	15			
	精神障害作業療法学各論	4	60					30	30			
	発達障害作業療法学各論	3	45					30	15			
	高次神経障害作業療法学各論	2	30					15	15			
	高齢障害作業療法学各論	3	45					30	15			
	作業療法専門学	2	30						30			
	ハンドセラピー	1	15						15			
	日常生活活動学	3	45					30	15			
	義肢装具学	2	30					30				
	ホースセラピー	1	15			15						
	総合臨床作業療法学	6	90					45	45			
	43単位/ 17科目 合計	43	645	30	30	75	0	300	210	0	0	
地域作業療法学	地域作業療法学概論	1	15		15							
	地域作業療法学各論	3	45					30	15			
	地域作業療法技術学	3	45					30	15			
		7単位/ 3科目 合計	7	105	0	15	0	0	60	30	0	0
臨床実習	見学実習	1	45		45							
	検査測定実習	2	90				90					
	評価臨床実習	4	180						180			
	総合臨床実習	18	810							405	405	
	地域臨床実習	1	45					45				
		26単位/ 5科目 合計	26	1170	0	45	0	90	45	180	405	405
総単位数・時間数及び各学年時間数			175	3435	435	405	390	450	525	420	405	405
					840		840		945		810	

## 目 次

## ◎1年次 開講科目

心理学	.....	1
日本語表現	.....	2
人間関係学	.....	3
コミュニケーション論	.....	4
統計学	.....	5
生物学	.....	6
物理学	.....	7
保健体育(実技)	.....	8
英会話	.....	9
地域貢献活動論	.....	10
解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	.....	11
解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	.....	12
生理学	.....	13
基礎運動学	.....	14
人間発達学	.....	15
リハビリテーション概論	.....	16
作業技術学	.....	17
地域文化学(和紙)	.....	18
作業療法評価学	.....	19
身体障害作業療法学概論	.....	20
精神障害作業療法学概論	.....	21
地域作業療法学概論	.....	22
見学実習	.....	23

## ◎2年次 開講科目

臨床心理学	.....	24
病理学	.....	25
内科学	.....	26
老年学	.....	27
整形外科学	.....	28
神経内科学	.....	29
小児科学	.....	30
精神医学	.....	31
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)	.....	32
救命医学	.....	33
作業分析学	.....	34
中枢神経障害評価技術学	.....	35
精神障害評価技術学	.....	36
発達障害評価技術学	.....	37
高次神経障害評価技術学	.....	38
関節運動技術学	.....	39
体表解剖技術学	.....	40
発達障害作業療法学概論	.....	41
高次神経障害作業療法学概論	.....	42
ホースセラピー	.....	43
検査測定実習	.....	44

## ◎3年次 開講科目

解剖学Ⅲ	.....	45
臨床生理学	.....	46
社会保障学	.....	47
作業療法研究法	.....	48
作業療法管理運営学	.....	49
作業療法理論	.....	50
中枢神経障害作業療法学各論	.....	51
運動器障害作業療法学各論	.....	52
精神障害作業療法学各論	.....	53
発達障害作業療法学各論	.....	54
高次神経障害作業療法学各論	.....	55
高齢障害作業療法学各論	.....	56
作業療法専門学	.....	57
ハンドセラピー	.....	58
日常生活活動学	.....	59
義肢装具学	.....	60
総合臨床作業療法学	.....	61
地域作業療法学各論	.....	62
地域作業療法技術学	.....	63
評価臨床実習	.....	64
地域臨床実習	.....	65

1年次

開講科目

授業科目名	心理学			(フリガナ) 担当教員名	イワハシ ユカ 岩橋 由佳
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
心理学全般を広く紹介します。臨床場面のみならず日々使える心理学をお伝えします。授業内容は進行具合で変更することがあります。					
GIO (一般目標)					
心理学の基礎的な知識を身につけることができる。					
SBO (行動目標)					
心理学全般を学び日頃の生活面及び臨床場面で活かすことができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・心理学概説				
第2回	心理学概説(2)				
第3回	感覚・知覚・注意・認知				
第4回	情動・動機付け・パーソナリティ・社会				
第5回	記憶・学習				
第6回	言語・概念・思考				
第7回	発達と知能				
第8回	臨床心理学とは				
第9回	防衛機制				
第10回	心理アセスメント				
第11回	臨床で用いられる心理検査				
第12回	臨床心理学の介入方法(行動的)				
第13回	臨床心理学の介入技法(内面的)				
第14回	臨床心理学の介入技法(相談的)				
第15回	統括 心理学のまとめ				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編：リハベーシック 心理学・臨床心理学；医歯薬出版株式会社					
参考書					
実務経験に関する内容					
臨床心理士、公認心理師の資格を有する講師により、心理学の基本的な知識について教育する。					

授業科目名	日本語表現			(フリガナ) 担当教員名	フクダ カズコ 福田 和子
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
古事記神話を読む      小論文を書く      毎時間小テスト					
GIO (一般目標)					
古事記神話の概要を理解する      論理的思考をする					
SBO (行動目標)					
神話で語られている考え方が現代に活着ていることを説明できる 論理的思考に基づいて小論文を書いてみる					
授業回数	授業内容				
第1回	古事記について    国生み    ・    神生み				
第2回	天岩戸				
第3回	ヤマタのオロチ退治				
第4回	因幡の白兔				
第5回	オオクニヌシの国作り・国譲り				
第6回	天孫降臨				
第7回	竜宮伝説				
第8回	まとめ				
第9回	論理的思考力				
第10回	言い換える力①				
第11回	言い換える力②				
第12回	比べる力				
第13回	たどる力				
第14回	小論文①				
第15回	小論文②				
成績評価基準					
定期試験70%    小テスト15%    出席15%					
教科書					
まんが 古事記    ふわこういちろう 著    戸矢学 監修    講談社					
参考書					
実務経験に関する内容					

授業科目名	人間関係学			(フリガナ) 担当教員名	オオニシ ケイコ 大西 恵子
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
「人間関係学」「ビジネスマナー」とつきにくそうなこのテーマを皆さんと学びましょう。 15時間の講義が終わる頃には、きっと何かが変わっているはずです。					
GIO (一般目標)					
円滑な人間関係を保つために自己発見とマナーの習得					
SBO (行動目標)					
マナーの基本を説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	はじめに 「社会人に求められる能力」				
第2回	" 「自分の今を見つめてみよう」				
第3回	ビジネスマナーとは? 「マナーの重要性」				
第4回	「マナーの基本になる5つのエレメント」				
第5回	コミュニケーション能力を磨こう (1)		「話し方と聞き方」		
第6回	"				
第7回	コミュニケーション能力を磨こう (2)		「報告、連絡、相談」		
第8回	「思いやりとおせっかいのちがい」				
第9回	コミュニケーション能力を磨こう (3)		「電話での受け答え」		
第10回	「 " 」				
第11回	ビジネスマナーの実際		「電話対応」		
第12回	「訪問のしかた」				
第13回	「仕事の中での接し方」				
第14回	「お礼状や報告書の作成」				
第15回	まとめ (レポートテスト)		「あなたにとって人間関係学とは?」		
成績評価基準					
出席を重視します 50%					
毎回提出していただくレポート(講義中に作成) 50%				課題作成 1回	
教科書					
デジタル時代のマナー術					
トータルセルフチェックシート					
講義ごとに配布するプリント					
参考書					
実務経験に関する内容					
キャリアコンサルタントの資格を有する講師が、「人間関係」「ビジネスマナー」を中心とした、 円滑な人間関係を保つための自己発見とマナーに関する教育を行う。					

授業科目名	コミュニケーション論			(フリガナ) 担当教員名	ヒラヤス ルメ 平安 留女
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
自他を尊重した人間関係のコミュニケーションの基本的考え方と方法であるアサーション・トレーニング（理論編と実践編）を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
理論編：アサーションの認知学習を行う。					
実践編：見学・評価・臨床実習などにおいて「今まで出会ったことのないような問題に出会った時」「咄嗟に相手に対してどう言ったらよいか思いつかない時」などの場面を想定し、ロール・プレイを実践することで必要なスキルを身につける。					
SBO（行動目標）					
①頼まれごとをされた時、自分の気持ちをいつわらず「同意する」「同意できない」が言えるようになる。					
②相手を大切にしつつ自分の気持ちや考えを表現できるようになる。					
③必要な時、自分の意見がはっきり言えるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	アサーションとは？				
第2回	あなたのアサーション度は？				
第3回	自己紹介の実際				
第4回	人間関係のもち方の3つのタイプ				
第5回	アサーション チェック リスト				
第6回	認知学習（論理療法）				
第7回	論理療法における練習問題				
第8回	DESC法(問題を解決するための効果的な方法)の理解と実践				
第9回	DESC法（ロール・プレイ①）				
第10回	DESC法（ロール・プレイ②）				
第11回	DESC法（ロール・プレイ③）				
第12回	DESC法（ロール・プレイ④）				
第13回	DESC法（ロール・プレイ⑤）				
第14回	DESC法（ロール・プレイ⑥）				
第15回	アサーション・トレーニングの効果（変化）のフィードバック				
成績評価基準					
レポート（100%）					
教科書					
配布資料					
参考書					
平木典子「アサーション・トレーニング さわやかなく自己表現>のために」（2014）					
園田雅代「イラスト版子どものアサーション 自分の気持ちがきちんと言える38の話し方」（2014）					
平木典子編集「現代のエスプリ アサーション・トレーニング」（2005）					
実務経験に関する内容					
様々な学校およびクリニックで相談・支援業務の経験を有する公認心理師が、自他を尊重した人間関係のコミュニケーション方法であるアサーション・トレーニングを理論から実践について教育する。					

授業科目名	統計学			(フリガナ) 担当教員名	サカモト クニ ヒロ 坂本 邦博
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
パソコンは、学生の時も社会人になっても、不可欠な道具です。 楽しく学習しましょう。					
GIO (一般目標)					
多種多様な大量の情報から必要なものを抽出・分析して、「真理」を探求し、その結果を正しく「発信」する技能を習得する。					
SBO (行動目標)					
①Word、Excelの基本操作ができる。 ②パワーポイントが作成できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	パソコンの基本操作				
第2回	ファイル管理				
第3回	Word 基本操作・文字入力				
第4回	Word 文章作成・修飾・編集				
第5回	Word 表の作成・印刷				
第6回	Word 表現力のアップ				
第7回	Word 段組み				
第8回	Power Point 基礎				
第9回	Excel 関数(1)				
第10回	Excel 関数(2)				
第11回	Excel グラフ機能の活用				
第12回	Excel データベース機能の活用				
第13回	Excel ピボットテーブルとピボットグラフ機能				
第14回	Excel マクロ機能				
第15回	総合演習				
成績評価基準					
演習試験	50%				
課題	20%				
出席・授業姿勢	30%				
教科書					
よくわかるMicrosoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft Power Point 2019 FOM出版					
参考書					
医療・看護系のための情報リテラシー (東京出版)					
実務経験に関する内容					
企業でプログラミングに従事したきた教員により、データの集積と検索、及び分析の複雑な手操作を自動化する方法を教育する。					

授業科目名	生物学			(フリガナ) 担当教員名	タキグチ モト ユキ 滝口 素行
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
生物学の基礎を学びつつ、福祉に関係ありそうなトピックをとりあげ、考えてみる。					
GIO (一般目標)					
生物学の基礎的内容を理解する。また、話題になっている、医・福的内容について生物学的観点から考える。					
SBO (行動目標)					
出席・態度を重視 きちんとレポートを書き、提出する					
授業回数	授業内容				
第1回	授業の内容・評価の方法				
第2回	感染症				
第3回	免疫				
第4回	メンデル遺伝				
第5回	分子遺伝				
第6回	ゲノム編集				
第7回	ips細胞				
第8回	脳 1				
第9回	脳 2				
第10回	脳 3				
第11回	脳 4				
第12回	進化 1				
第13回	進化 2				
第14回	進化心理学 1				
第15回	進化心理学 2				
成績評価基準					
1. 出席・態度	10%				
2. レポート	90%				
教科書					
プリント配布					
参考書					
特になし					
実務経験に関する内容					

授業科目名	物理学			(フリガナ) 担当教員名	ナカヤマ 中山 純平
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
身体構造に関する力学、および治療に関わる物理法則についての理解を目指す。一方的な講義だけではなく演習の時間を多く設け、知識を「使う」ための練習をして真の理解につなげる。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学 (特に、身体にかかる力の構造) について理解すること。</li> <li>・電気・熱・波動・原子力 (特に、治療や治療器具等の原理) について理解すること。</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱った内容を他者に説明できること。</li> <li>・身体運動や治療について、物理的視点から考察できること。</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	力の図示、作用・反作用の法則、力のつりあい、力の合成・分解				
第2回	力のモーメントとてこの原理①				
第3回	力のモーメントとてこの原理②				
第4回	生体に存在するてこ①				
第5回	生体に存在するてこ②				
第6回	回転する物体とてこ (輪じく・滑車・歯車)				
第7回	問題演習				
第8回	いろいろな力 (ばねの力、摩擦力など)				
第9回	加速度とは何か (速度と加速度の関係、加速度と力の関係)				
第10回	力学的エネルギー				
第11回	浮力と圧力				
第12回	電気の基本 (直流と交流のちがひ、オームの法則、コンデンサーなど)				
第13回	波・音・熱・光・電波など				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
成績評価基準					
①授業ごとのレポート (学習に対する姿勢、物理に対する思考力・考察力)					
②定期試験 (物理に対する理解度)					
※①②両方が合格水準に到達していること					
教科書					
『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』 著：江原義弘ら 発行：南江堂					
参考書					
配布資料					
実務経験に関する内容					

授業科目名	保健体育（実技）			(フリガナ) 担当教員名	タハラ タダアキ スズキ ユウコ タナカ マユミ 田原忠明・鈴木裕子・田中真由美
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
自らの健康に留意し、仲間との関わりを豊かにしてスポーツに自主的に親しむ。（田原）					
GIO（一般目標）					
他人と比較することなく、自らの動きに意識させ、自らの身体をしっかりと動かし、自分と向き合う時間を創る。（田原）					
SBO（行動目標）					
自ら見て、聞いて、考え、判断し、行動することで 自らの技術の上達、成長を体感・体得する。（田原）					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・アンケート・アイスブレイク等（田原）				
第2回	軽スポーツ（田原）				
第3回	軽スポーツ（田原）				
第4回	軽スポーツ（田原）				
第5回	軽スポーツ（田原）				
第6回	軽スポーツ（田原）				
第7回	軽スポーツ（田原）				
第8回	オリエンテーション・アンケート等（田原）				
第9回	軽スポーツ（田原）				
第10回	軽スポーツ（田原）				
第11回	軽スポーツ（田原）				
第12回	軽スポーツ（田原）				
第13回	軽スポーツ（田原）				
第14回	軽スポーツ（田原）				
第15回	レクリエーションの原則とその実際				
第16回	レクリエーションの計画とその実践				
第17回	レクリエーション企画の実施①				
第18回	レクリエーション企画の実施②				
第19回	障がい者スポーツの意義と理念				
第20回	障がい者スポーツの意義と理念（鈴木）				
第21回	安全管理（鈴木）				
第22回	全国障害者スポーツ大会の概要（鈴木）				
第23回	障がい者スポーツ推進の取り組み（鈴木）				
成績評価基準					
出席 50%、関心・意欲・態度 30%、技能 20%（田原）					
参考書					
備考					
実務経験に関する内容					
田原：中学校、高等学校教諭免許（保健体育）を有し、保健体育の指導を行ってきた教員が担当する。 田中：レクリエーションインストラクターの資格あり。小学生を対象に10年以上キャンプなどの活動を通して指導を実施している。					

授業科目名	英会話			(フリガナ) 担当教員名	ハラダ 原田 レネー
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
Reviewing basic English Communication Skills. 英会話の練習。簡単な文法でコミュニケーションできるようになりましょう。					
GIO (一般目標)					
Few therapists use English conversation at work so why should they study English conversation? Communicating only in English is like a handicap for some. It's frustrating and it's hard. It's much like rehabilitation. The patient often wants to do something but cannot do so freely. Being in an English only environment, students learn how their future patients will feel. They learn that by trying and effort, they can do it.					
SBO (行動目標)					
①簡単な日常英会話ができるようになる。 ②簡単な英文を理解できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	Spelling Practice	綴りの練習	Greetings/ Introductions 挨拶 ・ 紹介		
第2回	Numbers pronunciation	数字の発音			
第3回	verb 'to be' + adjectives	be 動詞 + 形容詞	Descriptions 描写		
第4回	Making sentences	短い文章の作成 主語 + 動詞 + 目的語	Building blocks of English 英語の基本		
第5回	Prepositions	前置詞	Where are you?		
第6回	Adverbs of frequency	頻度の副詞	sometimes/ usually/ never		
第7回	Asking questions Do you + 動詞	do動詞を使って疑問の作成	クイズ作成		
第8回	Asking questions Are you + 形容詞・補語	be動詞を使って疑問の作成	クイズ		
第9回	There is/ There are	～がある・いる	Descriptions of places 場所を描写		
第10回	Imperatives	命令文	薬局のロールプレー		
第11回	Imperatives + Review prepositions	命令文	道を教える事		
第12回	Abilities	can + 動詞	出来る・出来ない		
第13回	Present progressive	be動詞 + ～ing			
第14回	Near future	be動詞 + ～ingの復習	Making and appointment 近い将来		
第15回	総合演習				
成績評価基準					
20% participation	積極的参加度				
20% quiz	小テスト				
60% final exam	最終試験				
教科書					
英会話 I English Conversation for Therapists 英和英辞書*					
参考書					
実務経験に関する内容					
英会話教師による基本的な英会話について、ロールプレーを交えて教育を行う。					

授業科目名	地域貢献活動論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
ボランティア活動を通じ、実践の中で人間関係やコミュニケーション技能を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
他者との人間関係の重要性と関係構築に必要な主体的行動の実践を身につける。					
SBO (行動目標)					
1. ボランティアとは何かを理解する。 2. 人間関係及びコミュニケーションの重要性を理解する。 3. 実践を通じ、技能・能力の向上と地元地域の貢献を図ることの意味を理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	ボランティアの意味を理解する。				
第2回	良い人間関係とは何かを理解する。				
第3回	コミュニケーションとは何かを理解する。				
第4回	地域貢献の意味を理解する。				
第5回	ボランティア活動の実践①				
第6回	ボランティア活動の実践②				
第7回	ボランティア活動の実践③				
第8回	ボランティア活動の実践④				
成績評価基準					
レポート提出(100%)					
教科書					
配付資料で対応します					
参考書					
実務経験に関する内容					
地元貢献活動のある作業療法士が、我が国におけるボランティア活動の現状と考え方の基礎を講義で学び、実際に地域貢献活動を通じて地元貢献へのあり方を学ぶ。					

授業科目名	解剖学 I (骨学・靭帯学・筋学)			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ イシカワ シンジ ヨシカワ コウジロウ 柿本将平・石川慎二・吉川幸次郎			
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修			
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60			
授業概要								
前期は主に骨学・骨の連結について講義を実施する。後期は骨の連結に加えて筋学に関する講義を行う。								
GIO (一般目標)								
骨・関節・靭帯・筋の構造をイメージできるようになる。								
SBO (行動目標)								
習得すべき知識量は膨大なので毎回復習をすること。								
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容			
第1回	脊椎・胸郭の解剖	吉川	石川	第16回	骨盤連結	吉川		
第2回	脊椎・胸郭の解剖			第17回	骨盤周囲 殿部の筋			
第3回	付属性骨格 (下肢帯) の解剖			第18回	自由下肢連結			
第4回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第19回	自由下肢の筋			
第5回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第20回	自由下肢の筋			
第6回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第21回	自由下肢の筋			
第7回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第22回	肩関節・上肢帯の筋		石川	
第8回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第23回	自由上肢連結			
第9回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第24回	自由上肢の筋			
第10回	付属性骨格 (上肢帯) の解剖			石川	第25回		自由上肢の筋	吉川
第11回	付属性骨格 (上肢) の解剖				第26回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第12回	付属性骨格 (上肢) の解剖				第27回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第13回	付属性骨格 (上肢) の解剖			柿本	第28回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第14回	脊柱・頭蓋骨・胸郭の連結				第29回		腹部・胸郭の筋	
第15回	上肢帯の連結				第30回		腹部・胸郭の筋	
成績評価基準								
前・後期それぞれ筆記テストを実施する。 筆記試験100%								
教科書								
奈良勲 鎌倉矩子 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 医学書院 (第5版) 渡辺正仁 : PT・OT・STのための解剖学 廣川書店								
参考書								
実務経験に関する内容								
本科目はオムニバスである。医療機関等で理学療法士、作業療法士として従事してきた教員が骨・筋・関節・靭帯など筋骨格系の講義を行う。骨模型等を用いた実践的な教育を行う。								

授業科目名	解剖学Ⅱ（循環器学・内臓学・神経学）			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川 コウジロウ 幸次郎
開講学年	1	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
身体の内臓および神経系の構造を全般にわたり学習する。					
GIO（一般目標）					
①人体の構造をはたらきと関連づけて理解できるようになること。					
②学習終了時に循環器・神経の名称や位置を習得し、各組織の働きについても理解が可能となり、					
SBO（行動目標）					
講義の中で、教科書内の図や文章から各身体部位の構造を習得する。演習問題も実施する。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	細胞とは、組織学：上皮、腺、結合組織の構造			第16回	感覚器系：皮膚の感覚・特殊感覚
第2回	組織学：骨、軟骨の構造			第17回	内分泌系：ホルモン分泌組織・器官
第3回	神経系：神経系総論			第18回	脊髄
第4回	筋骨格系：筋総論			第19回	脳幹
第5回	循環器系：心臓			第20回	中脳・小脳・間脳
第6回	呼吸器系：鼻腔・気管・気管支			第21回	大脳①
第7回	呼吸器系：肺			第22回	大脳②
第8回	消化器系：口腔・食道			第23回	脳神経①
第9回	消化器系：胃・小腸・大腸			第24回	脳神経②
第10回	消化器系：胆嚢・肝臓・膵臓			第25回	脳の血管
第11回	泌尿器系：腎臓			第26回	脊髄神経①
第12回	泌尿器系：腎臓その他の泌尿器			第27回	脊髄神経②
第13回	男女生殖器：男女生殖器の構造と男女の違い			第28回	運動・感覚の伝導路
第14回	循環器系：全身の血管			第29回	自律神経
第15回	循環器系：静脈・リンパ			第30回	発生学：人体発生学
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
奈良勲 鎌倉矩子：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院（第5版） 渡辺正仁：PT・OT・STのための解剖学 廣川書店					
参考書					
実務経験に関する内容					
介護老人保健施設で実務に従事し、大学院にて解剖学を研究した講師が担当する。					

授業科目名	生理学			(フリガナ) 担当教員名	ハシモト ミチオ マツザキ ケンタロウ 橋本 道男・松崎 健太郎 ヤマシロ ヤスヒロ 山城 安啓
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
生理学はただ覚えるだけの学問ではありませんので、難しいといわれますが、良く考えて一度理解するとその面白さが分かると思います。がんばって学習してください。(橋本・松崎)					
復習を中心とした勉強をお願いします。(山城)					
GIO (一般目標)					
ヒトの生理的機能の基本的事項について個体レベルを中心に学ぶ。					
SBO (行動目標)					
①人体の基本的構造と機能を理解する。					
②神経と筋肉の基本的機能・神経系の機能および感覚器について理解する。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	イントロダクション、代謝		第16回	生理学の基礎 1	
第2回	体温の調節、発熱とはなにか		第17回	" 2	
第3回	消化器系の概要		第18回	" 3	
第4回	消化、吸収のしくみ		第19回	" 4	
第5回	循環系の概要		第20回	筋肉の基本的機能 1	
第6回	心臓と血管の働き		第21回	" 2	
第7回	血圧の調節		第22回	" 3	
第8回	血液のはたらき、凝固系		第23回	神経の基本的機能 1	
第9回	呼吸のしくみ		第24回	" 2	
第10回	酸素、二酸化炭素の運搬		第25回	神経系の機能 1	
第11回	尿の生成と排泄		第26回	" 2	
第12回	体液とその調節		第27回	感覚の生理学 1	
第13回	内分泌系の概要		第28回	" 2	
第14回	ホルモンの調節と役割		第29回	" 3	
第15回	生殖のしくみ		第30回	" 4	
成績評価基準					
筆記試験80% (橋本・松崎)					
出席20% (橋本・松崎)					
復習小テスト 又は レポート (山城)					
本試験 (山城)					
教科書					
貴邑富久子、根来英雄 : シンプル生理学. 南江堂 2016年改訂第7版 (山城)					
参考書					
人体の構造と機能[1] 解剖生理学 ; 医学書院 (橋本・松崎)					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。臨床検査技師免許を有する講師や、日本生理学会、日本生気象学会に所属する講師により、生理学の基本的知識について講義する。					

授業科目名	基礎運動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
身体の構造を運動学的な観点から学ぶ。筋肉の収縮様態や関節構造から動きを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節の種類や形状、運動、筋肉が理解できる</li> <li>・ 運動学的な観点から姿勢や運動の理解ができる</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節の種類や形状、運動を筋肉を踏まえて説明ができる。</li> <li>・ 姿勢のアライメント、バランスについて説明ができる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	基本姿勢の運動理解と身体運動の面と軸		第16回	上肢帯と上肢の運動について〈肩甲帯〉	
第2回	仕事エネルギーとてこ		第17回	上肢帯と上肢の運動について〈肩・肘〉	
第3回	運動学的分析と筋力と重力		第18回	上肢帯と上肢の運動について〈肘・前腕〉	
第4回	運動学的分析		第19回	手関節と手の運動	
第5回	運動きの構造と機能 (関節の分類)		第20回	手関節と手の運動	
第6回	運動きの構造と機能 (筋収縮の様態)		第21回	上肢・上肢帯の復習	
第7回	運動きの構造と機能 (関節運動)		第22回	下肢帯と下肢の運動 (骨盤)	
第8回	中間試験		第23回	下肢帯と下肢の運動 (股関節)	
第9回	運動きの構造と機能 (運動の中枢神経機構)		第24回	下肢帯と下肢の運動 (膝)	
第10回	運動きの構造と機能 (運動の中枢神経機構)		第25回	下肢帯と下肢の運動 (足部)	
第11回	運動きの構造と機能 (筋と関節の動き)		第26回	中間試験	
第12回	運動きの構造と機能 (筋と関節の動き)		第27回	体幹と頸部の運動	
第13回	運動きの構造と機能 (運動の末梢神経機構)		第28回	歩行と歩行様態	
第14回	呼吸とMETsについて		第29回	歩行と歩行様態	
第15回	呼吸とMETsについて		第30回	総復習	
成績評価基準					
定期試験100% (前期成績 + 後期成績で総合的に処理します)					
教科書					
中村隆一 斉藤宏 長崎浩 著: 基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2016					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作業療法を実践した教員が基本的な身体構造、人体のしくみ、国家試験問題に関連する事柄について指導する。					

授業科目名	人間発達学			(フリガナ) 担当教員名	ヒキノ 引野 リエ
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
人間の発達・成長に関する知識を総合的に学ぶ					
GIO (一般目標)					
ライフステージによる発達を学び、人間とはどのような存在であるのか、その一端を考察すること。 発達における「遊び」の重要性について学ぶこと。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原始反射の発達の意味を説明することが出来る</li> <li>・乳幼児期の発達のポイントとその関連性を説明することが出来る。</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	「人間」とは何か？				
第2回	人間発達とは？				
第3回	発達理論				
第4回	胎児期の発達				
第5回	原始反射				
第6回	0-12ヶ月の発達1				
第7回	0-12ヶ月の発達2				
第8回	幼児期前期(1-3歳)の発達1				
第9回	幼児期前期(1-3歳)の発達2				
第10回	幼児期後期(3-6歳)の発達1				
第11回	幼児期後期(3-6歳)の発達2				
第12回	学齢期の発達				
第13回	青年期・成人期の発達				
第14回	成人期・老年期の発達				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
授業態度：15%					
筆記試験：85%					
教科書					
大城昌平編：リハビリテーションのための人間発達学，メディカルプレス。					
参考書					
福田恵美子編：人間発達学，中外医学社。					
実務経験に関する内容					
定型発達および障害のある子どもたちの発達成長に関わっている作業療法士が、ライフステージ毎の発達の特徴を、臨床経験も織り交ぜながら講義する。					

授業科目名	リハビリテーション概論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ    イシハラ ナオキ    クリバヤシ カズキ 石川 慎二・石原 直樹・栗林 一樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
リハビリテーションの理念(自立支援・就労支援等含む)、社会保障論、地域包括ケアシステムの理解と、それに関するセラピストの役割や他職種連携について理解する。					
GIO (一般目標)					
リハビリテーションの言葉の意味を理解するとともに、臨床の場での実践的なリハビリテーションを理解すること。					
SBO (行動目標)					
1. リハビリテーションとは何かを理解する 2. 日本における社会保障制度について理解する 3. 地域包括ケアシステムの理解と他職種連携(チームアプローチ)について理解する 4. 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う					
授業回数	授業内容				
第1回	リハビリテーションの理念、リハビリテーション医療の流れの理解 (石川)				
第2回	理学療法とは(石原)				
第3回	言語聴覚療法とは(栗林)				
第4回	作業療法とは				
第5回	健康と障害の概念と分類の理解(ICIDH と ICF)				
第6回	障害の心理的・社会的視点の理解				
第7回	リハビリテーションの過程の理解				
第8回	リハビリテーションの諸段階の理解				
第9回	他職種連携(チームアプローチ)の理解				
第10回	リハビリテーションとの関連の深い関連職種の理解				
第11回	ADL,QOLの概念と評価法の理解				
第12回	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケアの理解				
第13回	リハビリテーションを支える医療・社会保障制度の理解				
第14回	倫理とは、医の倫理				
第15回	各専門職における倫理規定				
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
上好 昭孝,土肥 信之 編著：医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版;永井書店					
参考書					
実務経験に関する内容					
石川：医療機関で実践経験のある作業療法士が、リハビリテーションの基本的内容を講義する。 石原：維持期に臨床経験のある理学療法士が、理学療法士の役割等について教示する。 栗林：急性期や回復期リハ、生活期リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が講義する。					

授業科目名	作業技術学			(フリガナ) 担当教員名	ニシダ 西田	キヨヒサ 清久	/	ヤスダ 安田	タツヒコ 龍彦	/	タナカ 田中	マユミ 真由美
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修							
授業形態	演習	単位数	4	時間数	60							
授業概要												
陶芸細工や木工細工など具体的な作業を行い、作業にはどのような工程・目的・効果があるのかを学ぶ。												
GIO (一般目標)												
作業療法の臨床で用いられる幅広い作業の種目別技法を身につけるとともに、その作業を治療的に応用する視点を習得する。												
SBO (行動目標)												
陶芸細工や木工細工など作品を制作することができる。 作品を制作することを通してそれぞれの素材の特徴を理解し、安全に行うために必要なリスクを説明できる。												
授業回数	授業内容			授業回数								
第1回	陶芸細工 (歴史・経験談・材料・窯説明)			第16回	革細工作成							
第2回	実技 (土練り・作陶)			第17回	革細工作成							
第3回	実技 (土練り・作陶)			第18回	革細工作成							
第4回	実技 (仕上げ)			第19回	革細工作成 (作業分析と治療的応用)							
第5回	素焼 (750℃) 窯積み→火入			第20回	切り絵作成							
第6回	窯出し・釉薬掛け			第21回	切り絵作成							
第7回	本焼窯			第22回	切り絵作成							
第8回	窯出し・統括意見交換			第23回	切り絵作成 (作業分析と治療的応用)							
第9回	木工細工: 木材・木工の基礎知識、 道具・工具の使用法、製作課題の設計			第24回	編み物作成							
第10回	木材 (材料) の木取りと切断			第25回	編み物作成							
第11回	各部材の切断と加工			第26回	編み物作成 (作業分析と治療的応用)							
第12回	各部材の加工、接合と組み立て			第27回	タイル細工							
第13回	組み立てと仕上げ			第28回	タイル細工							
第14回	仕上げと表面塗装			第29回	タイル細工 (作業分析と治療的応用)							
第15回	製作課題の発表			第30回	作業活動を治療的応用に活用する方法							
成績評価基準												
西田: 出席 (20%)、制作課題 (50%)、道具の管理 (清掃・態度) (30%) 安田: 出席、制作での様子、完成作品の処理 田中: 課題の提出 (60%)、レポート提出 (20%)、授業態度・道具の管理等 (20%)												
教科書												
後期: 日本作業療法士協会編集: 作業—その治療的応用改定第2版, 協同医書出版社, 2008												
参考書												
実務経験に関する内容												
西田: 安田: 田中: 病院や介護老人保健施設での臨床経験で、作業活動を活用した作業療法の実務に従事してきた。 対象者に合わせたアダプテーションや段階づけを行いながら、目的に合わせた作業を提供してきた。												

授業科目名	地域文化学（和紙）			(フリガナ) 担当教員名	クボタ アキラ 久保田 彰
開講学年	1年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
和紙工芸を通じた伝統文化の把握を和紙作成を通じ学んでいく。					
GIO（一般目標）					
1.地域の伝統を理解した中で、和紙工芸が果たす意味を理解する。 2.作業療法の過程における一分野として、この作業・作業活動の特徴や技能を修得する。					
SBO（行動目標）					
手仕事としての手すき和紙を理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	石州和紙の歴史と沿革、製造工程について				
第2回	石州和紙の用途及び使用について				
第3回	葉書判・A3判の簀桁による和紙製造の実習と鉄板乾燥①				
第4回	葉書判・A3判の簀桁による和紙製造の実習と鉄板乾燥①				
第5回	A3判サイズ・奉書判の簀桁による和紙製造の実習と鉄板乾燥①				
第6回	A3判サイズ・奉書判の簀桁による和紙製造の実習と鉄板乾燥②				
第7回	奉書判の簀桁による和紙製造の実習試験及び鉄板乾燥				
第8回	葉書判・A3判の簀桁による和紙製造の実習と鉄板乾燥				
成績評価基準					
出席日数、授業態度 実習の各工程の評価、漉き上げた和紙の評価					
教科書					
参考書					
パンフレット、石州半紙記録映画のDVD、石州和紙の歴史、沿革等のPowerPoint					
実務経験に関する内容					
石州半紙技術者会副会長を務める講師が、地域の伝統工芸である「石州和紙」の理解および作業活動の特徴、作業療法への応用技能に関する実践的教育を行う。					

授業科目名	作業療法評価学			(フリガナ) 担当教員名	クリハラ ケンジロウ ヤマト ケン 栗原 健司郎・山本 健
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
作業療法における評価の知識を身につけ、具体的な評価法の意義を理解、選択できるよう、講義・演習を行う。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士に必要な作業療法評価について理解する。</li> <li>・作業療法評価の基礎を重点とした知識を技術を習得する。</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法評価の目的について説明する。</li> <li>・対象疾患に応じた評価法を一部模倣する。</li> <li>・作業療法評価の種類、対象を列記する。</li> </ul>					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	作業療法評価の意義		第9回	身体機能評価 (バイタルサイン)	
第2回	作業療法評価の導入・流れ		第10回	身体機能評価 (関節可動域測定)	
第3回	共通領域の評価 (観察)		第11回	身体機能評価 (筋力検査)	
第4回	共通領域の評価 (観察)		第12回	身体機能評価 (反射検査)	
第5回	共通領域の評価 (面接)		第13回	身体機能評価 (感覚検査)	
第6回	共通領域の評価 (面接)		第14回	身体機能評価 (上肢機能検査)	
第7回	精神機能評価 (評価の基礎)		第15回	身体機能検査 (片麻痺機能検査、筋緊張)	
第8回	精神機能評価 (評価の基礎)		第16回	脳画像と高次脳機能検査	
			第17回	脳画像と高次脳機能検査	
			第18回	精神機能評価 (気分・不安・うつ)の検査)	
			第19回	ADL評価	
			第20回	ADL評価	
			第21回	生活行為向上マネジメント (MTDLP)	
			第22回	生活行為向上マネジメント (MTDLP)	
			第23回	生活行為向上マネジメント (MTDLP)	
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学―第3版―医学書院					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作業療法を実践した教員が基本的な身体機能評価、精神機能評価、MTDLPの基礎教育を行う。					

授業科目名	身体障害作業療法学概論			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
身体障害領域における作業療法の概論を座学と実際の体験、介助を通じて学ぶ。					
GIO (一般目標)					
身体障害領域における作業療法を実践できるようになるために、作業の意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学習していく態度を身につける。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害とは何か説明できる。</li> <li>・基本的な介助技術を考え、実施できる。</li> <li>・作業療法における“作業”の意味を説明できる。</li> <li>・記録の方法を理解できる。</li> <li>・身体障害とADLとの関連を話し合うことができる。</li> </ul>					
前期授業回数	前期授業内容			後期授業回数	後期授業内容
第1回	身体障害作業療法の分野・歴史・目的			第9回	各領域の作業療法
第2回	身体障害作業療法の分野・歴史・目的			第10回	各領域の作業療法
第3回	現代の作業療法の作業とは			第11回	身体障害と作業療法を考える
第4回	身体障害と日常生活活動について			第12回	身体障害と作業療法を考える
第5回	身体障害体験			第13回	記録の方法 (SOAP)
第6回	身体障害体験の振り返り			第14回	事例検討
第7回	身体障害体験の振り返り (発表)			第15回	まとめ
第8回	身体障害領域の対象疾患について				
成績評価基準					
前期：発表50%+レポート50% 後期：筆記試験100%					
総合成績：前期試験+後期試験で総合的に判定する。					
教科書					
監修・編集 長崎重信：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第2版。MEDICAL VIEW, 2015					
監修 長崎重信 編集 里村恵子：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第2版。MEDICAL VIEW, 2015					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、身体障害領域における作業療法についてその経験を生かした事例等を盛り込み講義、演習を行う。					

授業科目名	精神障害作業療法学概論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
精神医療福祉全般に関する我が国の現状と作業療法との関わりを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
精神障害に対する作業療法について、精神保健の基本概念、心の健康と病などを含め、歴史時流れの中で作業療法はどのように変化し現代に至っているかを考える。					
SBO (行動目標)					
①精神障害について理解する。 ②精神障害に対する作業療法の歴史と、現在の現状までの変化を理解する。 ③精神保健の基本概念について理解する。 ④心の健康と病などについて理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション、イントロダクション (精神障害作業療法とは何か理解する)				
第2回	精神科医療を取り巻く現状を理解する。				
第3回	我が国の精神医療と精神科作業療法の歴史を理解する。				
第4回	精神の障害とは何か理解する。				
第5回	作業療法での“作業”とは何かを理解する。				
第6回	自己理解、各アプローチについて理解する。				
第7回	薬物療法の必要性と現状について理解する。				
第8回	予後と再発、病識について理解する。				
第9回	作業の原点とは何かを理解する。				
第10回	精神障害作業療法の手段としての作業とは何かを理解する。				
第11回	精神障害作業療法の目的及び役割とは何かを理解する。				
第12回	精神障害作業療法における協業・効果とは何かを理解する。				
第13回	精神機能分野における作業療法過程について理解する。				
第14回	精神障害作業療法の活躍の場について理解する。				
第15回	総括・まとめ				
成績評価基準					
筆記 (95%)、出席状況 (5%)					
教科書					
山根 寛：精神障害と作業療法 新版。三輪書店，2017 長崎重信監修・山口芳文編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版。メジカルビュー社					
参考書					
実務経験に関する記述					
精神障害領域で勤務経験のある作業療法士が、精神障害者に対する作業療法の基本となる役割や目的、更には我が国における精神科医療の実際について講義を中心に説明します。					

授業科目名	地域作業療法学概論			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ 柿本 将平
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
日本における「地域医療の成り立ち」や「地域リハビリテーション」を学び、地域作業療法の歴史と今後の展望・課題について考える。					
GIO（一般目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域作業療法を理解するために、地域のとらえ方や地域医療、地域におけるリハビリテーションの歩みを知る。</li> <li>・地域作業療法の視点を養うために、生活障害のとらえ方と作業活動の広がり理解する。</li> </ul>					
SBO（行動目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域という言葉の意味を説明できる。</li> <li>・生活構造の要素を説明できる。</li> <li>・地域リハビリテーションの概念について説明できる。</li> <li>・医学モデルと生活モデルの違いについて記述できる。</li> <li>・地域作業療法の考え方について説明できる。</li> <li>・地域での患者及び障害児者、高齢者への作業療法の適応を説明できる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	「地域」のとらえ方				
第2回	地域リハビリテーションの流れをとらえる（地域医療活動の成り立ち）				
第3回	地域リハビリテーションの流れをとらえる（地域リハビリテーションの概念と活動変遷）				
第4回	地域リハビリテーションの流れをとらえる（地域社会に根ざしたりハビリテーション）				
第5回	地域作業療法を考察する（地域作業療法の概念）				
第6回	地域作業療法を考察する（地域作業療法と生活障害：患者、障害児者、高齢者）				
第7回	地域作業療法を考察する（日本における地域作業療法：患者、障害児者、高齢者）				
第8回	地域作業療法を考察する（作業活動と社会参加の広がり：患者、障害児者、高齢者）				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
大熊 明・加藤朋子：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版. 医学書院. 2017					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・介護療養病床、訪問看護ステーションで作業療法の実践を行ってきた教員が、地域における対象者および環境へ考え方、介入について教育する。					

授業科目名	見学実習			(フリガナ) 担当教員名	栗原 健司郎 <small>クリハラ ケンジロウ</small>
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
本校で学習した1年次までの知識と技術・技能および態度を、臨床実習施設での作業療法体験を通じて学習する。					
GIO (一般目標)					
実習生が臨床実習指導者のもとに、作業療法における実際の現場において、主に見学を通じて保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高めることができる。					
SBO (行動目標)					
1. 職業人として望ましい態度や行動をとることができる 2. 作業活動を体験させていただきながら、リスク管理の重要性を身につけることができる 3. 記録・報告をすることが出来る					
授業回数	授業内容				
	臨床実習施設での見学実習 40時間 (5日間) 見学実習事前・事後に関するセミナー及び評価 5時間  ※なお、臨床実習5科目のうち2/3以上は医療提供施設での実習となります。 ※また、医療提供施設において行う実習時間のうち1/2以上は病院・診療所で実施します。				
成績評価基準					
見学実習施設指導者からの評価 (40%)、実習出席状況(20%) 事前OSCE (20%)、実習報告会 (20%)					
教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉等、臨床現場における作業療法士の指導のもと、作業療法場面の見学実習を行う。					

2年次

開講科目

授業科目名	臨床心理学			(フリガナ) 担当教員名	タケダ ミオ 武田 未央
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
臨床心理学の全体像を体系的に概説し、臨床実践の方法については実習を行う。					
GIO (一般目標)					
リハビリテーションの臨床において必要な心理的基礎力や対人援助職の基本的姿勢を培う。					
SBO (行動目標)					
①患者様と信頼関係を築く姿勢を身につけ、模擬的に実施できる。 ②患者様の心理状況を理解できるように、心の問題に関する基礎的内容を説明できる。 ③各々の検査法について理解し、目的や特徴などの説明ができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	臨床心理学とは何か：歴史と構造				
第3回	問題を理解する（アセスメント）（1）目的と方法				
第4回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法①				
第5回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法②				
第6回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法③				
第7回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法④				
第8回	問題を理解する（アセスメント）（3）異常心理学				
第9回	問題を理解する（アセスメント）（4）ライフサイクルと心理的問題				
第10回	問題を理解する（アセスメント）（5）発達過程と生じる障害や問題				
第11回	問題に介入する（1）理論モデル①				
第12回	問題に介入する（1）理論モデル②				
第13回	問題に介入する（1）理論モデル③				
第14回	問題に介入する（2）介入技法①個人				
第15回	問題に介入する（2）介入技法②集団				
成績評価基準					
評価方法：定期試験（後期）の成績と授業参加状況を総合して評価する。 割合：試験成績と授業参加状況の割合は7：3。 基準：試験は国家試験の過去問を中心とした選択および記述問題において正答率6割以上、 授業参加は主体性と積極性が認められること。					
教科書					
下山晴彦 編，2009「よくわかる臨床心理学 [改定新版]」 ミネルヴァ書房					
参考書					
下山晴彦・石丸径一郎，2020「公認心理師スタンダードテキストシリーズ③臨床心理学概論」ミネルヴァ書房 野島一彦・岡村達也 編，2018「公認心理師の基礎と実践③臨床心理学概論」遠見書房 倉光修，2020「臨床心理学概論」放送大学教育振興会					
実務経験に関する内容					
公認心理師、臨床心理士の資格をもつ講師が、医療機関における心理検査や相談に携わるなか、アセスメントの方法や介入に関するモデル等、実践的な教育を行う。					

授業科目名	病理学			(フリガナ) 担当教員名	オハラ ヒロキ 大原 浩貴
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
解剖・生理と併せ、基本的な病気のなりたちを理解する。					
SBO (行動目標)					
細胞・組織の障害、循環障害、炎症、感染症、遺伝子異常など臓器の違いを問わない病因について理解し、説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	病理学で学ぶこと, 細胞・組織の障害と修復				
第2回	循環障害(1)				
第3回	循環障害(2)				
第4回	炎症と免疫				
第5回	感染症				
第6回	代謝障害				
第7回	先天異常と遺伝子異常				
第8回	腫瘍				
成績評価基準					
試験 100%					
教科書					
大橋健一ら：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] 第5版 医学書院					
参考書					
坂井建雄/岡田隆夫：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 第10版 医学書院					
実務経験に関する内容					
病理学講座病態病理学講師により、病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちについて教育する。					

授業科目名	内科学			(フリガナ) 担当教員名	長坂 行博 澄川 学・井上 貴雄 大内 武・高瀬 裕史・青木 耕
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
予防医学的観点から、リハビリテーション医療、さらに各人の健康生活の基礎となる医学的知識を共に学びます。(長坂) 講義を聴いて、少しでも循環器に対する抵抗感がやわらげられると思います。(大内)					
GIO (一般目標)					
疾病および障害の理解 (井上) セラピストに必要な循環器学および今後の予防医学的とりくみについて理解する。(大内)					
SBO (行動目標)					
基本的な内科疾患およびその治療方法について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るしくみ ①自律神経				担当：長坂先生
第2回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るしくみ ②免疫				
第3回	栄養学の基礎知識 ①3大栄養素(糖質、脂質、タンパク質)				
第4回	栄養学の基礎知識 ②ビタミン、ミネラル、ファイトケミカル等				
第5回	脳の働きについて				
第6回	認知症について				
第7回	心臓の働きについて				
第8回	ストレスの本質と対応について				
第9回	ガンについて				
第10回	糖尿病について				
第11回	動脈硬化症について				
第12回	健やかに老いるために				
第13回	肝・胆・膵 総論：解剖・生理・生化学				
第14回	肝炎・肝硬変・肝癌・				担当：澄川先生
第15回	胆石・胆道癌：急性・慢性膵炎・膵癌				担当：澄川先生
第16回	病態と治療				担当：澄川先生
第17回	アレルギー疾患と免疫				担当：井上先生
第18回	膠原病総論				担当：井上先生
第19回	膠原病各論				担当：井上先生
第20回	循環器 P63~85				担当：大内先生
第21回	循環器 残り				担当：大内先生
第22回	糖尿病				担当：高瀬先生
第23回	B型肝炎				担当：青木先生
第24回					
第25回					
第26回					
第27回					
第28回					
第29回					
第30回					
成績評価基準					
出席および筆記試験：長坂 出席(20%)、筆記試験(80%)：大内					
教科書					
各回のプリントを配布し、テキストとさせていただきます(長坂) 伊東進、森博愛 編著：メディカルスタッフのための内科学 第4版；医学出版社 資料を提出、講義中に利用(澄川)					
参考書					
山口和克 監修：新版 病気の地図帳，講談社					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格(内科、循環器、消化器、産科、外科等)をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	老年学			(フリガナ) 担当教員名	キ タニ ミツ ヒロ マツ イ リュウ キチ 木谷 光博・松井 龍吉
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	加齢に伴う変化：生理機能				
第2回	加齢に伴う変化：運動・精神機能				
第3回	老年症候群				
第4回	循環器疾患・呼吸疾患				
第5回	神経・精神疾患				
第6回	骨・運動器疾患				
第7回	消化器・内分泌疾患				
第8回	腎・泌尿器疾患				
成績評価基準					
筆記試験 (100%) : 出席2/3以上の場合					
教科書					
佐々木 英忠・鳥羽 研二・荒井 啓行 著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	整形外科学			(フリガナ) 担当教員名	オオツカ テツヤ ヨネイ トオル オガワ シンヤ 大塚 哲也・米井 徹・小川 慎也 カミ ムラ アツシ カキマル ヒロユキ 上村 篤史・柿丸 裕之
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
緊急手術・学会等の都合により講義担当者が急に変更となる場合があります。 講義ノートは各講義担当医師ごとに作成してください。					
GIO (一般目標)					
整形外科の基本的な知識を学習する。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	肩関節とその周辺の外傷・障害				担当：上村先生
第2回	骨系統疾患・骨端症及び壊死				担当：小川先生
第3回	整形外科疾患の検査と評価				担当：米井先生
第4回	リウマチ性疾患・骨・軟部腫瘍				担当：小川先生
第5回	末梢神経損傷				担当：上村先生
第6回	四肢循環障害				担当：小川先生
第7回	代謝・内分泌疾患・感染症				担当：米井先生
第8回	整形外科総論				担当：柿丸先生
第9回	整形外科的診断学 ①				担当：柿丸先生
第10回	整形外科的診断学 ②				担当：柿丸先生
第11回	整形外科的治療法 ①				担当：柿丸先生
第12回	整形外科的治療法 ②				担当：柿丸先生
第13回	整形外科とリハビリテーション ①				担当：柿丸先生
第14回	整形外科とリハビリテーション ②				担当：柿丸先生
第15回	まとめ				担当：柿丸先生
第16回	変形性股関節症				担当：上村先生
第17回	先天性股関節脱臼・ペルテス病				担当：上村先生
第18回	大腿骨頸部骨折				担当：米井先生
第19回	大腿部疾患				担当：米井先生
第20回	関節について				担当：大塚先生
第21回	肘・手関節				担当：小川先生
第22回	脊椎疾患・頸椎				担当：柿丸先生
第23回	脊椎疾患・腰椎				担当：柿丸先生
第24回	骨粗鬆症				担当：柿丸先生
第25回	膝関節疾患 (全身性疾患を含めて)				担当：柿丸先生
第26回	下腿・足関節・足趾				担当：柿丸先生
第27回	スポーツ外傷と障害 ①				担当：柿丸先生
第28回	スポーツ外傷と障害 ②				担当：柿丸先生
第29回	まとめ				担当：柿丸先生
第30回					
成績評価基準					
定期試験					
その他					
教科書					
加倉井周一他編：PT、OTのための整形外科 運動器疾患とリハビリテーション；医歯薬出版					
参考書					
二瓶 隆一・木村 哲彦 編：整形外科学テキスト (改訂第2版)；南江堂					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格 (日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医、認定スポーツ医、認定脊椎脊髄病医、運動期リハビリテーション認定医、骨粗鬆症学会認定医) をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	神経内科学			(フリガナ) 担当教員名	キ タニ ミツ ヒロ マツ イ リュウ キチ 木谷 光博・松井 龍吉
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
①神経疾患観察のための解剖学的・生理学的基礎知識を修得する。 ②主な神経疾患の診察方法や検査方法を学ぶ。					
授業回数	授業内容				
第1回	感染性疾患				
第2回	C V D (脳血管障害)				
第3回	C V D (脳血管障害)				
第4回	C V D (脳血管障害)				
第5回	中枢神経系の解剖と機能				
第6回	神経学的診断と評価				
第7回	神経学的検査法				
第8回	意識障害、脳死、植物状態 頭痛、めまい、失神				
第9回	末梢神経障害				
第10回	認知症				
第11回	変性疾患・脱髄疾患、錐体外路の変性疾患				
第12回	筋疾患				
第13回	脳神経外科領域の疾患				
第14回	脳腫瘍				
第15回	外傷性脳損傷				
成績評価基準					
テスト					
教科書					
川平 和美編著：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版. 医学書院, 2009					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産産）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	小児科学			(フリガナ) 担当教員名	ナカ シマ マサ ヒロ アンドウ ユキ リ 中島 匡博・安藤 幸典
開講学年	2年	開講学期	後期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
小児は心身共に成長・発達過程にあり、社会の影響を大きく受けます。子どもを取り巻く環境にも関心を持つことを期待しています。					
GIO（一般目標）					
小児科学の成長・発達など、基礎的な事項を理解する。					
SBO（行動目標）					
授業回数	授業内容				
第1回	小児科学概論			担当：中島先生	
第2回	小児科学的症候・診断・治療			担当：中島先生	
第3回	免疫・アレルギー疾患			担当：中島先生	
第4回	子どもとメディア			担当：中島先生	
第5回	新生児・未熟児疾患・先天異常			担当：安藤先生	
第6回	神経疾患・筋疾患			担当：安藤先生	
第7回	小児の発育・発達			担当：安藤先生	
第8回	循環器・呼吸器・感染症			担当：安藤先生	
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
畠田豊 著、奈良勲・鎌倉矩子 監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学第5版 医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。小児科専門医が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	精神医学			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
精神医学の基本的概要について、講義を中心に進行していきます。					
GIO (一般目標)					
精神医学の基本的概要について修得する。					
SBO (行動目標)					
1. 疾患論を通じ、疾患の説明ができる。 2. 精神障害の治療・リハビリテーションについて説明できる。 3. 精神医学に関連する課題や、医療・保健・福祉に関する状況と制度面について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	精神医学の歴史及び精神障害の成因と分類について理解する				
第2回	精神機能の障害と精神症状について理解する				
第3回	精神障害の診断と評価について理解する				
第4回	認知症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第5回	薬物依存症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第6回	統合失調症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第7回	気分障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第8回	神経症性障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第9回	成人のパーソナリティ・行動の障害について理解する				
第10回	精神遅滞、心理的発達障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第11回	精神障害の治療とリハビリテーション、薬物療法、精神療法について理解する				
第12回	リエゾン精神医学及び心身医学について理解する				
第13回	ライフサイクルにおける精神医学について理解する				
第14回	社会文化とメンタルヘルスについて理解する				
第15回	精神医学を取り巻く各種社会保障制度等について理解する。				
成績評価基準					
筆記試験100% (前期・後期ともに中間試験と期末試験を実施します)					
教科書					
奈良勲・鎌倉矩子 監修・上野武治 編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版；医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
精神科医療に携わった経験を持つ作業療法士が、我が国における精神科医療の実際や、精神疾患の特徴、治療・リハビリテーションについて講義を中心に説明する。					

授業科目名	リハビリテーション医学 (薬理・栄養含)			(フリガナ) 担当教員名	マ ニワソウキチ アオキ コウ ナカム タ ヒロノリ ヤマトケン 馬庭 壯吉・青木 耕・中牟田 祐典・山本 健 ニシノ ケンロウ ナホ 西園 憲郎・永戸 ゆうこ
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの概要について理解し、障害に対するチームアプローチについて学ぶ。(馬庭)</li> <li>・PT・OT・STで学ぶ疾患の概要を理解し、他職種が行う治療について習得する。</li> <li>・臨床現場でリハ職にも薬剤の知識が必要であるため基礎的な項目を身につけてもらう(西園)</li> <li>・リハビリテーションを行う上で必要な栄養学の基礎知識や栄養療法について学ぶ。(永戸)</li> </ul>					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生から3年生にかけて学ぶ疾患の基礎となる知識・技術の全体像を習得する。</li> <li>・患者の服用薬剤をひととおり確認して、薬によって症状が改善されているか確認してリハビリに臨む(西園)</li> <li>・リハビリテーションにおける栄養の必要性を理解し、栄養に関する知識を修得する。(永戸)</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患の病態・医師の行う治療法を知り、その疾患に適応するPT・OT・STの治療の基礎を把握する。</li> <li>・薬剤の知識を身につけることで他職種とのコミュニケーションをとり専門職としての信頼を獲得する(西園)</li> <li>・栄養学の基礎や栄養療法について説明できる。(永戸)</li> <li>・健康管理やリハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。(永戸)</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション①				馬庭
第2回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション②				
第3回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション③				
第4回	脳血管障害の概念①				青木
第5回	脳血管障害の概念②				
第6回	脳血管障害のリハビリテーション①				
第7回	脳血管障害のリハビリテーション②				中牟田
第8回	内部障害 循環器疾患とリハビリテーション				
第9回	内部障害 呼吸器疾患とリハビリテーション				
第10回	内部障害 (糖尿病、高脂血症等) の疾患概念				山本健
第11回	内部障害 (糖尿病、高脂血症等) のリハビリテーション				
第12回	関節リウマチと膠原病の疾患概念				
第13回	関節リウマチのリハビリテーション				西園
第14回	神経筋疾患のリハビリテーション (ALS、SCDなど)				
第15回	神経筋疾患のリハビリテーション (PD、GBなど)				
第16回	なぜリハ職が薬剤について知らなければならないのか				永戸
第17回	第1章 整形外科疾患に使用される薬剤				
第18回	第2章 脳神経疾患に使用される薬剤				
第19回	" "				
第20回	第3章 呼吸・循環・消火器・代謝疾患に使用される薬剤				
第21回	第4章 生活習慣病に使用される薬剤				
第22回	第5章 高齢者に使用される薬剤についての注意点				
第23回	第6章 緩和・精神心理に使用される薬剤				
第24回	リハビリテーションに役立つ薬の知識の総まとめ				永戸
第25回	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性				
第26回	栄養素の役割と食事摂取基準				
第27回	ライフステージ別の栄養				
第28回	病態別の栄養療法				
第29回	疾患別の栄養療法①				
第30回	疾患別の栄養療法②				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
三上真弘 監修, 出江紳一・加賀谷齊 編集: リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版. 南江堂, 2016 (馬庭) 藤原俊之 監修, 高橋哲也 編集: リスクに備えて臨床に活かす 理学療法にすぐ役立つ薬の知識. 医学書院 (西園) 配布資料 (永戸)					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。日本リハビリテーション医学会専門医による整形外科疾患に関する講義、薬剤師および管理栄養士、PT、OT、STによりリハビリテーションに関連する薬剤や栄養について実践的な教育を行う。					

授業科目名	救命医学			(フリガナ) 担当教員名	クリハラ 栗原 ケン ジロウ 健司郎
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・実習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
高度化する医療ニーズに対応するためAEDの使用や人工呼吸等の基礎知識、技術を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
安全管理学、救急医療学を学ぶことでリスク管理を徹底できるようになる。 上級救命講習終了証を取得する。					
SBO (行動目標)					
①手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得できる。 ②臨床実習に必要な安全管理や組織連携に関する基本的知識を習得できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	救急医療学総論①			第9回	安全管理学総論
第2回	救急医療学総論②			第10回	医療・介護施設での安全管理①
第3回	救急医療学総論③			第11回	医療・介護施設での安全管理②
第4回	救命技術 (外部)			第12回	医療・介護施設での安全管理③
第5回	救命技術 (外部)			第13回	感染症に対する安全管理①
第6回	救命技術 (外部)			第14回	感染症に対する安全管理②
第7回	救命技術 (外部)			第15回	安全管理を高める連携と教育
第8回	救命技術 (外部)				
成績評価基準					
前期 レポート100%					
後期 定期試験100%					
教科書					
内山 靖・藤井浩美・立石雅子 編：リハベーシック 安全管理学・救急医療学，医歯薬出版株式会社，2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
救急救命士による救命講習 (座学・実技) を行い、保健・医療・福祉の現場における実践的な教育を行う。 栗原：病院や訪問にて、精神科領域における作業療法の実践を行ってきた。					

授業科目名	作業分析学			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
作業分析の方法を講義し、様々な作業を体験し、演習を行う。作業分析の観点から人の生活技能の観察体験を行う。					
GIO (一般目標)					
作業分析が作業療法にいかに関与するかを理解する。					
SBO (行動目標)					
作業療法活動を構造的に捉え、分析することができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	人にとって作業とは				
第2回	作業分析とは				
第3回	生活活動の分析① (GW)				
第4回	生活活動の分析① (発表)				
第5回	生活活動の分析② (GW)				
第6回	生活活動の分析② (発表)				
第7回	包括的作業分析① (GW)				
第8回	包括的作業分析① (レポート提出)				
第9回	包括的作業分析②				
第10回	包括的作業分析② (レポート提出)				
第11回	技を育む (作業ができる条件)				
第12回	技を育む (作業で伝える)				
第13回	行動分析①				
第14回	行動分析②				
第15回	行動分析③				
成績評価基準					
定期試験70% レポート作成 (30%)					
教科書					
日本作業療法士協会編集：作業—その治療的応用改定第2版. 協同医書出版社, 2008					
参考書					
山根寛著:ひとと作業・作業活動 新版.三輪書店,2017					
実務経験に関する内容					
病院や介護老人保健施設での臨床経験で、作業活動を活用した作業療法の実務に従事してきた。対象者に合わせたアダプテーションや段階づけを行いながら、目的に合わせた作業を提供してきた。					

授業科目名	中枢神経障害評価技術学			(フリガナ) 担当教員名	カキモト 柿本 ショウヘイ 将平
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
中枢神経障害領域における作業療法評価の講義・演習を行う。					
GIO (一般目標)					
・中枢神経障害領域における作業療法評価の基本的知識・技術を理解する。					
SBO (行動目標)					
・中枢神経障害領域における作業療法評価を説明できる。 ・中枢神経障害領域における作業療法評価法の選択、模倣、実施ができる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	中枢神経障害概論			第16回	協調性検査
第2回	観察・面接 (中枢神経障害領域における)			第17回	協調性検査
第3回	意識の評価、バイタルサインの測定			第18回	協調性検査
第4回	感覚検査 (表在感覚、深部感覚、複合感覚)			第19回	脳画像評価 (脳画像概論)
第5回	感覚検査 (表在感覚、深部感覚、複合感覚)			第20回	脳画像評価 (脳血管障害)
第6回	感覚検査 (表在感覚、深部感覚、複合感覚)			第21回	脳画像評価 (脳血管障害)
第7回	片麻痺機能検査 (Brunnstrom stage test)			第22回	脳画像評価 (神経変性、脊髄病変)
第8回	片麻痺機能検査 (上田12段階法)			第23回	運動・動作分析
第9回	片麻痺機能検査 (SIAS)			第24回	運動・動作分析
第10回	片麻痺機能検査 (上肢機能、STEF)			第25回	運動・動作分析
第11回	片麻痺機能検査 (上肢機能、STEF)			第26回	運動・動作分析
第12回	片麻痺機能検査 (筋緊張検査)			第27回	運動・動作分析
第13回	バランス検査 (姿勢反射検査)			第28回	運動・動作分析
第14回	バランス検査 (姿勢反射検査)			第29回	運動・動作分析
第15回	バランス検査 (姿勢反射検査)			第30回	運動・動作分析
成績評価基準					
実技・口頭試問：50% 筆記試験50% (6割未満は再試験とする)					
総合成績：前期試験+後期試験で総合的に判定する。					
教科書					
岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学—第3版—医学書院					
監修 長崎重信 編集 佐竹勝：作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法評価学 改訂第2版。メジカルビュー、2015					
田崎義昭・斎藤佳雄 著：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版。南山堂、2016					
石井慎一郎 編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践。MEDICAL VIEW、2013					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・介護療養病床、訪問看護ステーションで作業療法の実践を行ってきた教員が、中枢神経障害領域における作業療法評価の基本・応用について実践的な教育を行う。					

授業科目名	精神障害評価技術学			(フリガナ) 担当教員名	クリハラ 栗原 ケン ジロウ 健司郎
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義) 演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
精神障害に対する作業療法評価について、面接・観察・諸検査の視点についての認識を深め、評価における技法を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
1. 精神障害に関する作業療法評価についての知識と技術を習得する。 2. 客観的情報を統合・解釈し、治療計画を立案するまでの流れを理解する。					
SBO (行動目標)					
情報収集から作業療法計画立案までの流れを、レポートとしてまとめることができる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	オリエンテーション			第16回	前期講義内容の振り返り
第2回	精神障害作業療法の評価項目について			第17回	疾患による症状・状態像について①
第3回	精神障害作業療法の評価内容と流れ			第18回	疾患による症状・状態像について②
第4回	情報収集について			第19回	疾患評価から治療計画まで①
第5回	観察評価について			第20回	疾患評価から治療計画まで②
第6回	観察評価について(陽性症状と陰性症状)			第21回	疾患評価から治療計画まで③
第7回	記録法・個人情報の保護について			第22回	疾患評価から治療計画まで④
第8回	面接評価について			第23回	疾患評価から治療計画まで⑤
第9回	作業療法評価レポート様式について①			第24回	疾患評価から治療計画まで⑥
第10回	作業療法評価レポート様式について②			第25回	集団評価について①
第11回	作業療法評価レポート様式について③			第26回	集団評価について②
第12回	作業療法評価レポート様式について④			第27回	検査法について①
第13回	面接法(実技演習)①			第28回	検査法について②
第14回	面接法(実技演習)②			第29回	検査法について③
第15回	まとめ			第30回	まとめ
成績評価基準					
前期 レポート 50%		後期 定期試験 50%			
出席・取り組み 50%		レポート 40%		出席・授業態度 10%	
教科書					
長崎重信監修:ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版. 株式会社メジカルビュー社, 2015					
山根 寛:精神障害と作業療法 病いを生きる、病いと生きる、精神認知系作業療法の理論と実践 新版. 三輪書店, 2017					
参考書					
実務経験に関する内容					
栗原:病院や訪問にて、精神科領域における作業療法の実践を行ってきた。					

授業科目名	発達障害評価技術学			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
発達障害児・者と環境の相互作用を成立させている能力や技能を分析し、治療に結びつけるための評価について学ぶ。					
GIO (一般目標)					
全人的評価とは何かについて学習する中で、評価の基礎的な知識(画像診断も含む)と技能を身につける。 発達障害領域では観察による評価が重要であるため、観察法の体験学習を習得する。					
SBO (行動目標)					
1. 各機能を評価するために必要な評価を列挙することができる。 2. 列挙された評価の特徴と方法を挙げるすることができる。 3. 作業療法における発達的评价とは何かを理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	新生児の評価(NICU)				
第2回	全般的発達検査				
第3回	正常発達(粗大運動)①				
第4回	正常発達(粗大運動)②				
第5回	正常発達(GMFCS)				
第6回	正常発達(巧緻運動)				
第7回	認知の発達				
第8回	言語の発達				
第9回	ADL検査				
第10回	摂食・嚥下の発達				
第11回	遊びの発達				
第12回	発達検査				
第13回	原始反射・姿勢反射				
第14回	原始反射・姿勢反射				
第15回	原始反射・姿勢反射				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
楠本泰士編集:小児リハ 評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ.MEDICAL VIEW,2019年 大城昌平編:リハビリテーションのための人間発達学,メディカルプレス.					
参考書					
新田収・笹田哲・内昌之編集:知りたかった!PT・OTのための発達障害ガイド.金原出版,2012年 宮尾益知編集:ベッドサイドシリーズ ベッドサイドの小児神経・発達の診かた 改訂4版.南山堂,2017 楠本泰士編集:小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ. MEDICAL VIEW,2019年					
実務経験に関する内容					
障害児療育施設において作業療法士として実務している。					

授業科目名	高次神経障害評価技術学			(フリガナ) 担当教員名	ツツ イ ユウ スケ 筒井 裕介
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
GIO (一般目標)					
高次脳機能障害の病理を理解し、病態に応じた評価が選択できるようになる。					
SBO (行動目標)					
授業回数					
授業内容					
第1回	イントロダクション				
第2回	評価のための基礎知識				
第3回	ヒト活動時の脳のはたらき				
第4回	注意・記憶・感情について				
第5回	注意・記憶・感情についての評価の体験				
第6回	空間と行為について病理を理解するための基礎知識①				
第7回	空間と行為について病理を理解するための基礎知識②				
第8回	空間と行為について病理を理解するための基礎知識③				
第9回	空間と行為についての評価の体験①				
第10回	空間と行為についての評価の体験②				
第11回	言語・前頭葉機能について病理を理解するための基礎知識①				
第12回	言語・前頭葉機能について病理を理解するための基礎知識②				
第13回	言語・前頭葉機能についての評価の体験①				
第14回	言語・前頭葉機能についての評価の体験②				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
著 石合純夫：高次脳機能障害学. 第2版, 医歯薬出版株式会社 改訂第2版 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学					
参考書					
実務経験に関する内容					
総合病院で身体障害領域に従事する専任作業療法士が、高次脳機能障害の病態について、病態に応じた評価の選択及び実施ができるよう、事例を通じた実践的な教育を行う。					

授業科目名	関節運動技術学			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学と運動学を発展させ、各関節の構造や機能を理解する</li> <li>・関節運動を理解し評価技術について学習をする</li> </ul>					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法における、関節運動の動きと動かし方と作業療法評価に関連する内容を理解する</li> <li>・対象者に適切に接することができる基本的態度を習得する</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各評価の目的、適応について説明ができる。</li> <li>・各評価を統合して推論ができる。</li> <li>・作業療法、動作分析に応用できるようになる</li> <li>・各評価を実施できる</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	関節運動学の基礎、関節可動域測定について			第16回	脊柱、頸部と可動域測定
第2回	関節運動学の基礎、関節可動域測定について			第17回	脊柱、頸部と可動域測定
第3回	肩関節複合体と可動域測定			第18回	脊柱、頸部と可動域測定
第4回	肩関節複合体と可動域測定			第19回	脊柱、頸部と可動域測定
第5回	肩関節複合体と可動域測定			第20回	股関節と可動域測定
第6回	肩関節複合体と可動域測定			第21回	股関節と可動域測定
第7回	肩関節複合体と可動域測定			第22回	股関節と可動域測定
第8回	肘と前腕、可動域測定			第23回	股関節と可動域測定
第9回	肘と前腕、可動域測定			第24回	膝関節と可動域測定
第10回	肘と前腕、可動域測定			第25回	膝関節と可動域測定
第11回	肘と前腕、可動域測定			第26回	膝関節と可動域測定
第12回	手根・手と可動域測定			第27回	足関節と可動域測定
第13回	手根・手と可動域測定			第28回	足関節と可動域測定
第14回	手根・手と可動域測定			第29回	足関節と可動域測定
第15回	手根・手と可動域測定			第30回	足関節と可動域測定
成績評価基準					
定期試験					
前期：筆記50%、実技50% 後期：実技50% 筆記50%					
教科書					
1、岩崎テル子ほか編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学，医学書院					
2、Donald A、Neumann：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版.医歯薬出版.2018					
3、中村隆一：基礎運動学 第6版補訂.医歯薬出版.2014					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み講義、演習を行う。					

授業科目名	体表解剖技術学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
筋・骨・神経を中心とした解剖学的特徴の講義・触診・徒手筋力検査実習を行う。					
GIO (一般目標)					
作業療法における評価で、人体の運動器の評価を理解することができる。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>筋・骨・神経の部位や走行を理解する。</li> <li>筋肉の触診の能力を身につける。</li> <li>徒手筋力検査法を身につける。</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	触診の基本 骨の復習			第16回	前期の復習
第2回	MMT説明 徒手筋力検査 上肢			第17回	肩甲骨に関わる筋
第3回	筋：肩甲上腕関節に関わる筋			第18回	頭・頸部に関わる筋
第4回	筋：肩甲上腕関節に関わる筋			第19回	頭・頸部に関わる筋
第5回	筋：肘関節に関わる筋			第20回	体幹に関わる筋
第6回	筋：肘関節に関わる筋			第21回	体幹に関わる筋
第7回	徒手筋力検査 上肢			第22回	症例に対するMMT
第8回	徒手筋力検査 上肢			第23回	症例に対するMMT
第9回	筋：手関節および手指に関わる筋			第24回	中間試験 (前期に学習した範囲)
第10回	筋：手関節および手指に関わる筋			第25回	中間試験 (前期に学習した範囲)
第11回	筋：手関節および手指に関わる筋			第26回	中間試験 (前期に学習した範囲)
第12回	筋：手関節および手指に関わる筋			第27回	総復習
第13回	実技試験			第28回	総復習
第14回	実技試験			第29回	臨床場面でのMMTについて
第15回	実技試験			第30回	まとめ
成績評価基準					
前期成績：実技試験100% 後期成績：中間試験+後期末試験(筆記試験)					
総合成績：前期成績+後期成績で総合的に判定する。					
教科書					
監修 青木隆明：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版，メジカルビュー社，2011					
監修 青木隆明：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版，メジカルビュー社，2012					
2、Helen J.Hislop著 津山直一・中村耕三訳 新・徒手筋力検査法 原著第9版 協同医書出版					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別作業療法を実践した教員が、MMTの基礎、骨・筋の触診などの実践教育を行う。					

授業科目名	発達障害作業療法学概論			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
発達障害児・者と環境の相互作用を成立させている能力や技能を分析し、治療に結びつけるための評価について学ぶ。					
GIO (一般目標)					
全人的評価とは何かについて学習する中で、評価の基礎的な知識と技能を身につける。 発達障害領域では観察による評価が重要であるため、観察法の体験学習を習得する。					
SBO (行動目標)					
1. 各機能を評価するために必要な評価を列挙することができる。 2. 列挙された評価の特徴と方法を挙げるすることができる。 3. 作業療法における発達的评价とは何かを理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論				
第2回	各疾患ごとの特徴 (脳性麻痺)				
第3回	各疾患ごとの特徴 (脳性麻痺)				
第4回	各疾患ごとの特徴 (脳性麻痺)				
第5回	疾患別評価 (筋ジストロフィー)				
第6回	疾患別評価 (筋ジストロフィー)				
第7回	各疾患ごとの特徴 (二分脊椎)				
第8回	各疾患ごとの特徴 (二分脊椎)				
第9回	各疾患ごとの特徴 (分娩麻痺)				
第10回	各疾患ごとの特徴 (骨形成不全)				
第11回	各疾患ごとの特徴 (知的発達障害)				
第12回	各疾患ごとの特徴 (自閉症スペクトラム障害)				
第13回	各疾患ごとの特徴 (自閉症スペクトラム障害)				
第14回	各疾患ごとの特徴 (注意欠如多動症)				
第15回	各疾患ごとの特徴 (学習症)				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
宮尾益知編集：ベッドサイドシリーズ ベッドサイドの小児神経・発達の診かた 改訂4版. 南山堂, 2017 楠本泰士編集：小児リハ 評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ.MEDICAL VIEW,2019年 大城昌平編：リハビリテーションのための人間発達学, メディカルプレス.					
参考書					
新田収・笹田哲・内昌之編集：知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド. 金原出版, 2012年 辛島千恵子編集：イラストでわかる 発達障害の作業療法. 2016年, 医歯薬出版					
実務経験に関する内容					
障害児療育施設において作業療法士として実務している。					

授業科目名	高次神経障害作業療法学概論			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
高次脳機能障害について病態と評価法などを学習する					
GIO (一般目標)					
・ 高次脳機能障害の基礎的知識を身につける					
SBO (行動目標)					
・ 各高次脳機能障害と評価を結び付け説明ができる ・ 各高次脳機能障害とADLとの結びつきを説明ができる					
授業回数	授業内容				
第1回	高次脳機能障害とは (概要)				
第2回	高次脳機能障害とは (画像評価)				
第3回	意識、注意について				
第4回	半側空間無視について				
第5回	記憶について				
第6回	失認について				
第7回	失行について				
第8回	古典的分類、言語症状				
第9回	純粹失読、純粹失書、失読失書など				
第10回	失語症検査について				
第11回	遂行機能について				
第12回	思考について				
第13回	感情、情動について				
第14回	大脳辺縁系について				
第15回	ADLとの関連				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
1,監修 長崎重信 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト5 高次脳機能障害作業療法学メジカルビュー社 2,著 石合 純夫 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、高次神経障害領域における作業療法概論について、その経験を生かした事例等を盛り込み講義,演習を行う。					

授業科目名	ホースセラピー			(フリガナ) 担当教員名	カワシマ シュウ 川嶋 舟
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
<p>ウマやイルカ、イヌ、ネコなど関わることで、人の機能や生活の改善、心の調整につながる動物介在療法について、特にウマを用いて行うホースセラピーについて取り扱う。現在、この領域に関わる人材の多くが、動物を専門とする方によるアプローチであるものの、今後は人について専門的な知識を有する作業療法士や理学療法士が取り組むようになる領域とされている。医療関係者が取り組むべき方向性について理解を深めると共に、ホースセラピーに対する基礎的な知識を習得し、馬との基本的な関係性を構築できるようになることを目指す。</p>					
GIO（一般目標）					
動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を活用するホースセラピーについて学ぶ。					
SBO（行動目標）					
作業療法士がホースセラピーを実践することの意義と効果、実践につなげるために必要な知識を習得する。					
授業回数	授業内容				
第1回	動物介在療法とは、ホースセラピーとは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。その中でも特に馬とともにリハビリテーションを行うホースセラピーとは何かを学ぶ。				
第2回	馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態について学ぶ。				
第3回	馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。				
第4回	人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ				
第5回	ホースセラピーの効果について（身体機能面） ホースセラピーの身体機能への効果について学ぶ				
第6回	ホースセラピーの効果について（精神機能面） ホースセラピーの精神機能への効果について学ぶ				
第7回	ホースセラピーの実践について ホースセラピーの実際について学ぶ				
第8回	馬との適切な関係の構築について ホースセラピーで使用する馬との適切な関係を構築する方法について学ぶ				
成績評価基準					
授業への関わり方と提出を求める課題によって評価する					
教科書					
なし					
参考書					
なし					
実務経験に関する内容					
ホースセラピーへの作業療法士の適切な関わり方について座学と実技を通して学ぶ。					

授業科目名	検査測定実習			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	90
授業概要					
評価学で学んだ技術を患者様に対して実施する。また施設の中での役割を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
対象者に対して適切に検査・測定が実施できる					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の状態に適した検査・測定が選択できる</li> <li>・対象者の状態を理解して安全性に配慮できる</li> <li>・得られた結果を正しく解釈できる</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
	実習施設での評価実習 90時間  * 臨床実習は45時間で1単位とします。				
成績評価基準					
実習前OSCE30% 実習後OSCE30% 検査測定実習評価表40% で総合的に判断します。					
教科書					
特になし					
参考書					
特になし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉等、臨床現場における作業療法士の指導のもと、対象者の状態等に関する評価を見学・模倣・実施する実習を行う。					

3年次

開講科目

授業科目名	解剖学Ⅲ			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
復習を通じて、作業療法士に必要な解剖学の勉強をしていく					
GIO (一般目標)					
筋・骨・神経・靭帯・内臓の名称を理解する					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋・骨・神経・靭帯・内臓の位置を説明できる</li> <li>・筋・骨・神経・靭帯・内臓の動きを習得する</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	骨について				
第2回	骨について				
第3回	筋肉・神経について				
第4回	筋肉・神経について				
第5回	靭帯について				
第6回	靭帯について				
第7回	内臓について				
第8回	内臓について				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
参考書					
系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、医学書院					
実務経験に関する内容					
病院・施設にて作業療法の臨床・教育を通して、作業療法対象者の状況把握から治療のための基礎として見聞を深めてきた。					

授業科目名	臨床生理学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本健
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
リハの基本の一つである生理学を復習する。作業療法に必要なところを重点に置く。					
GIO (一般目標)					
神経、筋肉、感覚・受容器について学ぶ。					
SBO (行動目標)					
神経と筋肉の基本的機能・神経系の機能および感覚器について説明できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	筋肉の基本的機能 1				
第2回	" 2				
第3回	神経の基本的機能 1				
第4回	" 2				
第5回	神経系の機能 1				
第6回	" 2				
第7回	感覚の生理学 1				
第8回	" 2				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
人体の構造と機能[1] 解剖生理学 ; 医学書院 (松崎・住吉) 貴邑富久子、根来英雄 : シンプル生理学, 南江堂 2016年改訂第7版 (山城)					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作業療法を実践した教員が、1年次に学んだ生理学の復習から臨床でのリスク管理につなげていけるよう指導を行う。					

授業科目名	社会保障学			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
我が国における医療体制及び社会保障制度について説明します。					
GIO (一般目標)					
我が国における医療・保険制度について理解する。					
SBO (行動目標)					
1. 医療・福祉に関する関連法規の内容について説明できる。 2. 医療・社会保障に関連する法令について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	社会福祉制度とは何かを理解する。				
第2回	社会福祉の法制度について理解する。				
第3回	医療保障制度の沿革および構造と体系について理解する。				
第4回	高齢者医療制度および保険診療等について理解する。				
第5回	介護保険制度について理解する。				
第6回	所得保障制度および年金保険制度等について理解する。				
第7回	公的扶助制度について理解する。				
第8回	障害者福祉制度について理解する。				
第9回	障害者総合支援法における就労支援について理解する。				
第10回	就労支援を含めた職業評価について理解する。				
第11回	特別支援教育について理解する。				
第12回	連携の重要性について理解する。				
第13回	医療・看護を含めた多職種連携について理解する。				
第14回	地域包括ケアシステム関連について理解する。				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
筆記試験 (100%)					
教科書					
著 福田素生 稲沢公一 他:社会保障・社会福祉.医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療機関で実践経験のある作業療法士が、我が国における社会保障制度や医療保険等に関する様々な制度、そして作業療法に関与する制度などを講義を通じ理解を深める。					

授業科目名	作業療法研究法			(フリガナ) 担当教員名	モリ ワキ シゲト 森脇 繁登
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
作業療法における研究の意義を理解し、研究計画を作成する技術を身につけ、実践できるようになる。また、研究における倫理を養うことができる。					
GIO (一般目標)					
演習も含めて一人一人が積極的に学ぶ姿勢で取り組んでもらいたいです。そして、本科目を通して、研究の難しさと同時におもしろさを感じてもらいたいです。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	作業療法研究法の概論				
第2回	作業療法研究の実例				
第3回	研究倫理				
第4回	研究の進め方 (リサーチクエッションの立て方)				
第5回	研究の進め方 (統計解析方法論 1)				
第6回	研究の進め方 (統計解析方法論 2)				
第7回	研究の進め方 (統計解析方法論 3)				
第8回	研究の進め方 (質的研究)				
第9回	演習 1 (デザインの構築)				
第10回	演習 2 (文献検索)				
第11回	演習 3 (データ入力、解析)				
第12回	演習 4 (発表準備)				
第13回	演習発表				
第14回	演習発表				
第15回	論文の構成				
成績評価基準					
前期：試験 100%					
後期：発表 100%					
教科書					
標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法：医学書院 作業療法研究法マニュアル：(社)日本作業療法士協会					
参考書					
実務経験に関する内容					
臨床研究を行っている作業療法士が、実際の研究で行う一連の流れを演習 (データ収集、統計分析) を交えながら講義・演習を行う。					

授業科目名	作業療法管理運営学			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ クリハラ ケンジ ロー 柿本将平、栗原健司郎
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
医療従事者及び作業療法士としての倫理観を養うとともに、作業療法士として必要な管理・運営について理解する。					
GIO (一般目標)					
臨床場面における基本的事項について理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職の職場管理・作業療法教育・職業倫理について理解し、説明できる。</li> <li>・ 作業療法におけるリスクマネジメントについて理解し、説明できる。</li> <li>・ 臨床実習を見据え、記録書式 (SOAP・プロセスレコード) について理解し用いることができる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	専門職としての職業倫理				
第2回	記録と報告について①				
第3回	記録と報告について②				
第4回	感染経路と予防について				
第5回	作業療法におけるリスクマネジメント①				
第6回	作業療法におけるリスクマネジメント②				
第7回	施設基準と診療報酬について				
第8回	作業療法における管理運営まとめ				
第9回	作業療法業務のマネジメント①				
第10回	作業療法業務のマネジメント②				
第11回	作業療法業務のマネジメント③				
第12回	作業療法臨床実習の理解と管理体制①				
第13回	作業療法臨床実習の理解と管理体制②				
第14回	作業療法士のキャリア開発①				
第15回	作業療法士のキャリア開発②				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
大庭潤平 編著：作業療法管理学 第2版 入門. 医歯薬出版株式会社、2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療機関、精神科および高齢期分野において専任作業療法士として勤務してきた教員が、医療従事者及び作業療法士としての倫理観を養うとともに、作業療法士として必要な管理・運営に関して教育する。					

授業科目名	作業療法理論			(フリガナ) 担当教員名	ワタナベ 渡邊 タツヒト 達人
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
作業療法理論に関する基本的知識を習得する					
GIO (一般目標)					
作業療法士に必要な理論の枠組みを習得する					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論の階層性を説明できる</li> <li>・各理論について概要を説明できる</li> <li>・リーズニングについて説明ができる</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	作業療法理論の成り立ち、仕組みについて				
第2回	作業療法理論の歴史				
第3回	人間作業モデル				
第4回	人間作業モデル				
第5回	人間作業モデル				
第6回	カナダ作業遂行モデル				
第7回	作業療法プロセスモデル				
第8回	生活行為向上マネジメント				
第9回	作業科学				
第10回	生体力学モデル・代償モデル				
第11回	感覚統合モデル・運動コントロールモデル				
第12回	} 最近の理論の動向について (CI療法、認知神経リハビリテーション、プール活動レベル、 マイドフルネス作業療法、作業適応理論等)				
第13回					
第14回					
第15回					
成績評価基準					
発表	40%				
テスト	60%				
教科書					
1 : 5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書. メジカルビュー社					
2 : 「作業」って何だろう 作業科学入門. 医歯薬出版株式会社					
3 : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
4 : 人間作業モデルで読み解く作業療法. 株式会社シービーアール					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科外来、通所、訪問リハの臨床経験を持つ作業療法士が理論とは何かについて講義します。					

授業科目名	中枢神経障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ 柿本 将平
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
中枢神経障害領域における作業療法について講義する。					
GIO (一般目標)					
中枢神経障害の対象者に作業療法を実施できるようになるために、各疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を習得する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経障害の病態、障害像、機能回復のメカニズム、機能的予後について説明できる。</li> <li>・中枢神経障害の医学的治療と作業療法の関連について説明できる。</li> <li>・中枢神経障害の対象者に対する作業療法評価、作業療法目標、プログラム立案を計画できる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	脳血管障害に対する作業療法①			第16回	筋萎縮性側索硬化症の作業療法①
第2回	脳血管障害に対する作業療法②			第17回	筋萎縮性側索硬化症の作業療法②
第3回	脳血管障害に対する作業療法③			第18回	筋萎縮性側索硬化症の作業療法③
第4回	脳血管障害に対する作業療法④			第19回	多発性硬化症の作業療法①
第5回	脳血管障害に対する作業療法⑤			第20回	多発性硬化症の作業療法②
第6回	脳血管障害に対する作業療法⑥			第21回	多発性硬化症の作業療法③
第7回	頭部外傷に対する作業療法①			第22回	ギランバレー症候群の作業療法①
第8回	頭部外傷に対する作業療法②			第23回	ギランバレー症候群の作業療法②
第9回	頭部外傷に対する作業療法③				
第10回	頭部外傷に対する作業療法④				
第11回	パーキンソン病に対する作業療法①				
第12回	パーキンソン病に対する作業療法②				
第13回	パーキンソン病に対する作業療法③				
第14回	脊髄小脳変性症に対する作業療法①				
第15回	脊髄小脳変性症に対する作業療法②				
成績評価基準					
筆記試験100%					
総合成績：前期試験+後期試験で総合的に判定する。					
教科書					
山本伸一：中枢神経系疾患に対する作業療法。三輪書店、2009					
伊藤利之 江藤文夫 中村春基 編：新版 日常生活活動 (ADL) 第2版 - 評価と支援の実際 -。医歯薬出版、2020					
監修・編集 長崎重信：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第2版。MEDICAL VIEW、2015					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・介護療養病床、訪問看護ステーションで作業療法の実践を行ってきた教員が、脳血管障害、頭部外傷、神経変性疾患等の疾患に関する病態、評価、治療介入に関する教育を行う。					

授業科目名	運動器障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
運動器疾患に対する作業療法（評価方法、基本的な治療・訓練手段、援助工夫）の専門知識および技術について学ぶ。					
GIO（一般目標）					
運動器疾患に必要な作業療法の知識を身につける					
SBO（行動目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>各運動器疾患の評価が説明できる。</li> <li>各運動器疾患の予後予測が説明できる</li> <li>各運動器疾患の病態を説明できる</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	頸髄損傷①			第16回	肩関節疾患について
第2回	頸髄損傷②			第17回	熱傷、CRPS、疼痛について
第3回	頸髄損傷③			第18回	体幹疾患について
第4回	頸髄損傷④			第19回	肘・手関節疾患（骨折含む）の作業療法
第5回	頸髄損傷⑤			第20回	下肢の疾患について
第6回	頸髄損傷⑥			第21回	関節疾患の評価から治療まで①
第7回	頸髄損傷まとめ			第22回	関節疾患の評価から治療まで②
第8回	関節リウマチ・整形外科疾患①			第23回	まとめ
第9回	関節リウマチ・整形外科疾患②				
第10回	関節リウマチ・整形外科疾患③				
第11回	関節リウマチ・整形外科疾患④				
第12回	関節リウマチ・整形外科疾患⑤				
第13回	関節リウマチ・整形外科疾患⑥				
第14回	関節リウマチ・整形外科疾患⑦				
第15回	関節リウマチ・整形外科疾患まとめ				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
西林保朗監修：リハ実践テクニク関節リウマチ。メジカルビュー社、2014 ※新規購入					
加倉井周一、渡辺英夫編：PT・OTのための整形外科学 運動器疾患とリハビリテーション 第2版、医歯薬出版株式会社					
長崎重信監修・編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学。メジカルビュー社、2012 ※購入済					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作療法を実践した教員が、様々な運動器疾患に対する作業療法の基本と応用などの実践教育を行う。					

授業科目名	精神障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	クリハラ 栗原 ケン ジロウ 健司郎
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
精神科領域における疾患別作業療法について理解を深める。					
GIO (一般目標)					
各精神疾患の特徴を理解した上で、精神障害領域における作業療法の目的や方法、禁忌事項などについて学ぶ。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>各精神疾患について説明できる。</li> <li>各疾患の回復段階に合わせた作業療法の目的・方法について説明できる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	治療過程と治療構造			第16回	前期範囲の復習
第2回	治療・援助の場			第17回	疾患別作業療法<<神経症性障害>>①
第3回	状態別アプローチ			第18回	疾患別作業療法<<神経症性障害>>②
第4回	疾患別作業療法<<器質性精神障害>>			第19回	疾患別作業療法<<神経症性障害>>③
第5回	疾患別作業療法<<物質関連障害>>①			第20回	疾患別作業療法<<摂食障害>>①
第6回	疾患別作業療法<<物質関連障害>>②			第21回	疾患別作業療法<<摂食障害>>②
第7回	疾患別作業療法<<物質関連障害>>③			第22回	疾患別作業療法<<パーソナリティ障害>>①
第8回	疾患別作業療法<<統合失調症>>①			第23回	疾患別作業療法<<パーソナリティ障害>>②
第9回	疾患別作業療法<<統合失調症>>②			第24回	疾患別作業療法<<パーソナリティ障害>>③
第10回	疾患別作業療法<<統合失調症>>③			第25回	応用問題
第11回	疾患別作業療法<<気分障害>>①			第26回	てんかんについて①
第12回	疾患別作業療法<<気分障害>>②			第27回	てんかんについて②
第13回	疾患別作業療法<<気分障害>>③			第28回	精神発達障害について①
第14回	精神発達障害と作業療法について			第29回	精神発達障害について②
第15回	まとめ			第30回	まとめ
成績評価基準					
定期試験 90%					
出席・授業態度 10%					
教科書					
長崎重信監修：ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版．株式会社メジカルビュー社，2015					
山根 寛：精神障害と作業療法 病いを生きる、病いと生きる、精神認知系作業療法の理論と実践 新版．三輪書店，2017					
参考書					
実務経験に関する内容					
栗原：病院や訪問にて、精神科領域における作業療法の実践を行ってきた。					

授業科目名	発達障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	タナカ 田中 マユミ 真由美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	3	時間数	45
授業概要					
発達障害領域の作業療法の対象となる疾患を理解し、具体的な作業療法の治療計画を立案し、治療・目的・治療実施のプロセスを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
発達障害別の作業療法について学習する。代表的な疾患の原因や障害との関係を理解し、作業療法士として治療実践を具体的に設定する。また、両親や家族の心理的社会的状況を理解し支援していく方法を身につける。					
SBO (行動目標)					
1. 代表的な疾患の原因と特徴、問題点を列挙することができる。 2. 各障害に合わせて、作業療法の具体的な治療計画を立案することができる。 3. 両親や家族に対する援助や指導を検討することができる。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	姿勢と運動の障害 (痙直型脳性麻痺)		第16回	運動発達の診かたの概要	
第2回	姿勢と運動の障害 (痙直型脳性麻痺) の治療		第17回	運動機能の診かた①	
第3回	姿勢と運動の障害 (アテトーゼ型脳性麻痺)		第18回	保育所実習	
第4回	姿勢と運動の障害 (アテトーゼ型脳性麻痺) の治療		第19回	保育所実習	
第5回	姿勢と運動の障害 (重症心身障害)		第20回	運動機能の診かた②	
第6回	遺伝子疾患 (Duchenne型筋ジストロフィー症)		第21回	反射の診かた①	
第7回	遺伝子疾患 (Duchenne型筋ジストロフィー症) の治療		第22回	正常発達の評価技術①	
第8回	小児整形疾患 (二分脊椎症)		第23回	正常発達の評価技術②	
第9回	小児整形疾患 (二分脊椎症) の治療				
第10回	小児整形疾患 (分娩麻痺) の治療				
第11回	小児の救急医療 (NICU)				
第12回	知的発達障害の治療				
第13回	自閉スペクトラム障害の治療①				
第14回	自閉スペクトラム障害の治療②				
第15回	注意欠如多動症・学習症の治療				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
宮尾益知編集：ベッドサイドシリーズ ベッドサイドの小児神経・発達の診かた 第4版. 南山堂, 2017					
参考書					
新田収・笹田哲・内昌之編集：知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド. 金原出版, 2012年 辛島千恵子編集：イラストでわかる 発達障害の作業療法. 2016年, 医歯薬出版					
実務経験に関する内容					
障害児療育施設において作業療法士として実務している。					

授業科目名	高次神経障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
高次脳機能障害について病態から治療について学習する					
GIO (一般目標)					
・高次脳機能障害の評価から病態理解、治療について理解できる					
SBO (行動目標)					
・各高次脳機能障害のスクリーニングが説明できる。 ・事例検討から必要な評価ができる ・各高次脳機能障害の治療エビデンスを調べることができる					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	高次脳機能障害総論			第16回	事例への評価を実施
第2回	高次脳機能障害に対する作業療法評価・介入			第17回	事例への評価を実施
第3回	高次脳機能障害に対する作業療法評価・介入			第18回	評価結果からの解釈
第4回	高次脳機能障害に対する作業療法評価・介入			第19回	評価結果からの解釈
第5回	高次脳機能障害に対する作業療法評価・介入			第20回	解釈からの介入プログラム立案
第6回	高次脳機能障害に対する作業療法評価・介入			第21回	解釈からの介入プログラム立案
第7回	失語症に対する評価・介入			第22回	プログラム実施
第8回	文献検索・パワーポイントにまとめる			第23回	プログラム実施
第9回	パワーポイントにまとめる				
第10回	パワーポイントにまとめる				
第11回	パワーポイントにまとめる				
第12回	パワーポイントにまとめる				
第13回	発表				
第14回	発表				
第15回	発表				
成績評価基準					
前期成績：発表100% 後期成績：レポート100%					
教科書					
1,監修 長崎重信 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト5 高次脳機能障害作業療法学メジカルビュー社 2,著 石合 純夫 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、高次神経障害領域における作業療法各論について、その経験を生かした事例等を盛り込み講義、演習を行う。					

授業科目名	高齢障害作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ 石川 慎二
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	3	時間数	45
授業概要					
高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
高齢者の特性に合わせた評価の方法、高齢者に対して使用頻度の高い生活評価、身体機能評価、認知機能評価、心理機能評価の実施方法などについて身につける。					
SBO (行動目標)					
高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解し、高齢者の心身機能、その特性について理解する。 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考え、老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を模擬的に実践する。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	高齢者のリハビリテーション：総論		第16回	依存疾患の管理：がん	
第2回	情報収集とリハビリテーションプログラム		第17回	リスク管理：意識障害	
第3回	廃用症候群、退院支援		第18回	リスク管理：血圧・不整脈	
第4回	在宅における全身管理・リハビリテーション		第19回	リスク管理：めまい	
第5回	終末期リハビリテーション：脳卒中		第20回	リスク管理：浮腫	
第6回	終末期リハビリテーション：神経変性疾患		第21回	リスク管理：消化器疾患	
第7回	終末期リハビリテーション：呼吸器疾患		第22回	リスク管理：低栄養	
第8回	依存疾患の管理：糖尿病		第23回	リスク管理：排尿障害	
第9回	依存疾患の管理：心不全				
第10回	依存疾患の管理：慢性腎臓病				
第11回	依存疾患の管理：末梢動脈疾患				
第12回	依存疾患の管理：認知症・せん妄				
第13回	依存疾患の管理：認知症・せん妄				
第14回	依存疾患の管理：がん				
第15回	老年期の作業療法：模擬授業				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
宮越浩一：高齢者リハビリテーション実践マニュアル。メジカルビュー社，2014年					
参考書					
松房利憲 小川恵子：標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第2版。医学書院，2016年					
長崎重信監修・編集：作業療法学ゴール・マスター・テキスト 精神障害作業療法学改訂第2版。メジカルビュー社，2015年					
浅海奈津美・守口恭子著：老年期の作業療法 第3版。三輪書店，2018年					
実務経験に関する内容					
老年期に携わった経験のある作業療法士が、老年期で起きうる疾患やその管理および対応、特にリスク管理について講義を通じ理解できるよう努めていく。					

授業科目名	作業療法専門学			(フリガナ) 担当教員名	フジ ヒロ ユキ モト ヒロ アツシ 藤井 寛幸 元廣 惇
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
WHOが提唱している「Community Based Rehabilitation」の概念を参考にし、地域でのインクルーシブ開発を目的とした課題解決型授業「CBRプロジェクト」を浜田市三隅町で実施する。CBRプロジェクトでは多職種がともに地域課題に対してフィールドワークやワークショップなどを通じて理解を深め、地域住民や行政職員と共に実施可能・持続可能な解決策を提案してく。					
GIO（一般目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や他職種との協業の意義や必要性を理解する。</li> <li>・地域における問題発見、解決のためにどのような情報収集、チームを形成する必要があるかを理解する。</li> <li>・グループワークに必要な時間管理能力、コミュニケーション能力を学び、特定の期間内に自ら決めた課題を教員のサポートのもと、遂行できる。</li> </ul>					
SBO（行動目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の資源や課題を発見するためのコミュニケーションをとることができる</li> <li>・チームで意見を出し、まとめるチームシップをとることができる</li> <li>・発表会でチームの意見をプレゼンテーションすることができる</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	授業説明・アイスブレイク				
第2回	フィールドワーク				
第3回	フィールドワーク				
第4回	フィールドワーク				
第5回	フィールドワーク				
第6回	フィールドワーク				
第7回	フィールドワーク				
第8回	フィールドワーク				
第9回	意見のまとめと統合				
第10回	意見のまとめと統合				
第11回	意見のまとめと統合				
第12回	意見のまとめと統合				
第13回	地域での課題解決策発表会				
第14回	地域での課題解決策発表会				
第15回	地域での課題解決策発表会				
成績評価基準					
授業態度（50%）、課題解決発表会での発表内容（50%）					
教科書					
特になし（必要資料については授業中に配布する）					
参考書					
特になし（必要資料については授業中に配布する）					
実務経験に関する内容					
地域でのまちづくり、地域リハビリテーションに従事した作業療法士及び、地域分野での教育開発・研究に従事した作業療法士がCBRの概念に基づいて、地域でのフィールドワークなどを通じた地域課題解決型授業を実施する。					

授業科目名	ハンドセラピー			(フリガナ) 担当教員名	フルタ ショウタ 古田 翔太
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
作業療法における手の外科、治療について理解する					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士が対象とする疾患の病態特性を習得する</li> <li>・治療法について概略を身につける</li> </ul>					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患の病態特性を説明できる</li> <li>・各疾患の治療法について説明できる</li> <li>・各疾患において適切な評価を選択できる</li> </ul>					
授業回数	授業内容				
第1回	概論				
第2回	骨折				
第3回	腱損傷				
第4回	末梢神経損傷				
第5回	RA (手)				
第6回	肩関節周囲組織損傷				
第7回	CRPS				
第8回	ハンドセラピープリント				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
1：齊藤 慶一郎 編：リハ実践テクニック ハンドセラピー メディカルビュー					
2：作業療法学 ゴールドマスターテキスト4 身体障害作業療法学 メディカルビュー					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、身体障害領域における作業療法について講義、演習を行う。					

授業科目名	日常生活活動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
日常生活動作(ADL)について講義・演習で学習します。					
GIO (一般目標)					
日常生活動作(ADL)に対する基礎的知識を理解する。					
SBO (行動目標)					
1. ADL/IADLの評価について説明できる。 2. 日常生活活動訓練について説明できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	日常生活活動の概念・意義・範囲			第16回	症例検討
第2回	生活関連活動			第17回	症例検討
第3回	国際生活機能分類ICF			第18回	症例検討
第4回	ADL評価 (FIM・BI)			第19回	症例検討
第5回	ADL評価 (FIM・BI)			第20回	症例検討
第6回	IADL評価			第21回	症例検討
第7回	IADL評価			第22回	症例検討
第8回	福祉用具・自助具について			第23回	症例検討
第9回	福祉用具・自助具について				
第10回	コミュニケーション				
第11回	コミュニケーション				
第12回	介助動作				
第13回	介助動作				
第14回	疾患別日常生活活動訓練の実際				
第15回	疾患別日常生活活動訓練の実際				
成績評価基準					
前期：授業態度 (50%) 出席 (50%) 後期：症例レポート 100%					
教科書					
伊藤利之 鎌倉矩子監修：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版. 医学書院, 2016 伊藤利之 江藤文夫編：新版日常生活活動 (ADL) - 評価と支援の実際 - . 医歯薬出版, 2010					
参考書					
実務経験に関する記述					
介護老人保健施設、個人病院デイケアで専任作業療法士として従事し、個別作療法を実践した教員が、日常生活動作における基本・応用的な動き、評価の仕方などを指導し、ADLについて学生に改めて考えてもらう機会を設ける。					

授業科目名	義肢装具学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムラ 中村 ノプロウ 宣郎・大森 オオモリ 浩己 フルタ 古田 ショウタ 翔太 ヒロミ 浩己
開講学年	3年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
実習を中心に装具に関する知識を身に付ける（中村 宣郎） 実習を通じ義肢についての理解を深める（大森 浩己） 装具の名称や適応、上肢義手の名称や適応の特徴を理解する（古田 翔太）					
GIO（一般目標）					
・義肢装具の種類・名称・適合判定について整理して学習する ・各疾患に適応する装具を理解できる ・義手の構成や操作について習得する					
SBO（行動目標）					
・各疾患に適応する装具を説明できる ・義手のパーツの名称について説明ができる ・義手のチェックアウトについて説明ができる					
授業回数	授業内容				
第1回	装具概論				
第2回	装具実習				
第3回	装具実習				
第4回	装具実習				
第5回	実習 下腿義肢				
第6回	実習 大腿義足				
第7回	実習 大腿義足				
第8回	実習 上腕義手				
第9回	上肢義肢・装具の基礎と適合判定（1）疾患別装具、総論、末梢神経・筋・腱・脊髄損傷				
第10回	上肢義肢・装具の基礎と適合判定（2）疾患別装具、末梢神経・筋・腱・脊髄損傷				
第11回	上肢義肢・装具の基礎と適合判定（1）義手チェックアウト				
第12回	上肢義肢・装具の基礎と適合判定（2）義手チェックアウト				
第13回	下肢義肢・装具の基礎と適合判定（1）				
第14回	装具作製（カックアップスプリント）				
第15回	装具作製（カックアップスプリント）				
成績評価基準					
筆記試験100%（6割未満は再試験を行います）。					
教科書					
清水順市・青木主税 リハビリテーション義肢装具学 第1版 株式会社メジカルビュー社 配布資料					
参考書					
佐伯寛 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学 第1版 医学書院					
実務経験に関する内容					
急性期病院において作業療法の実践を行ってきた教員が、義肢装具学について、その経験を生かした事例等を盛り込み講義を行う。					

授業科目名	総合臨床作業療法学			(フリガナ) 担当教員名	石川 慎二・田中 真由美・栗原 健司郎 柿本 将平・古田 翔太
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	6	時間数	90
授業概要					
作業療法に関する一連の総括と過程を知る。					
GIO (一般目標)					
1. 作業の適用と応用に関する基本的知識を修得する。 2. 統合と解釈について修得する。					
SBO (行動目標)					
1. 各領域の症例検討を実施しながら、評価、統合と解釈、問題点抽出と目標設定について説明できる。 2. 臨床の流れや作業療法に関する取組み方法のイメージ化を図ることができる。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	精神科介入、適用・応用・適応とは		第24回	全体科介入、適用・応用・適応とは	
第2回	精神障害関連		第25回	身体障害関連	
第3回	精神障害関連		第26回	身体障害関連	
第4回	精神障害関連		第27回	身体障害関連	
第5回	精神障害関連		第28回	身体障害関連	
第6回	精神障害関連		第29回	身体障害関連	
第7回	精神障害関連		第30回	身体障害関連	
第8回	精神障害関連		第31回	身体障害関連	
第9回	精神障害関連		第32回	身体障害関連	
第10回	精神障害関連		第33回	身体障害関連	
第11回	精神障害関連		第34回	身体障害関連	
第12回	精神障害関連		第35回	身体障害関連	
第13回	精神障害関連		第36回	身体障害関連	
第14回	精神障害関連		第37回	身体障害関連	
第15回	精神障害関連		第38回	身体障害関連	
第16回	精神障害関連		第39回	身体障害関連	
第17回	精神障害関連		第40回	身体障害関連	
第18回	精神障害関連		第41回	身体障害関連	
第19回	精神障害関連		第42回	身体障害関連	
第20回	精神障害関連		第43回	身体障害関連	
第21回	精神障害関連		第44回	身体障害関連	
第22回	精神障害関連		第45回	身体障害関連	
第23回	精神障害関連				
成績評価基準					
前期・後期レポート (100%)					
教科書					
配布資料					
参考書					
実務経験に関する内容					
石川：精神科病院に勤務歴のある作業療法士が評価から治療において実践を行っています。 栗原：病院や訪問にて、精神科領域における作業療法の実践を行ってきた。 柿本：療養型病医療施設、訪問看護ステーションにて作業療法の実践を行ってきた教員が担当する。 古田：病院の急性期病棟にて作業療法を実践してきた教員が担当する。 田中：病院・施設にて、作業療法対象者の状況把握から治療のための基礎として見聞を深めてきた。					

授業科目名	地域作業療法学各論			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ タナカ マユミ 柿本将平、田中真由美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携、作業療法の実践について学ぶ。					
GIO（一般目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域作業療法を支えている制度や施策を知り、社会の流れを背景にした作業療法の実践領域を学ぶ。</li> <li>・地域作業療法の実践課程をもとに社会生活支援と多職種連携について理解し、連携と協働の重要性を学ぶ。</li> </ul>					
SBO（行動目標）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の枠組み、変遷、それに伴う作業療法士の位置づけの変化について説明できる。</li> <li>・介護予防と地域支援のつながりについて説明することができる。</li> <li>・各領域および病期における作業療法士の視点、多職種連携を説明できる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	地域包括ケアシステムにおける作業療法		第16回	地域における作業療法の役割	
第2回	地域包括ケアシステムにおける作業療法		第17回	行政における作業療法の役割と実践	
第3回	介護予防、健康増進における作業療法		第18回	老年期障害領域での地域作業療法の実践	
第4回	介護予防、健康増進における作業療法		第19回	訪問リハビリテーションの役割	
第5回	介護予防、健康増進における作業療法		第20回	通所リハビリテーションの役割	
第6回	地域ケア会議		第21回	児童デイにおける作業療法士の役割と実践	
第7回	地域ケア会議		第22回	閉じこもり予防	
第8回	地域ケア会議		第23回	災害時の作業療法の役割	
第9回	福祉用具・自助具				
第10回	福祉用具・自助具				
第11回	福祉用具・自助具				
第12回	住環境整備				
第13回	住環境整備				
第14回	住環境整備				
第15回	住環境整備				
成績評価基準					
筆記試験100%					
総合成績：前期試験＋後期試験で総合的に判定する。					
教科書					
伊藤利之 鎌倉矩子監修：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版. 医学書院, 2016					
伊藤利之 江藤文夫 中村春基 編：新版 日常生活活動（ADL）第2版 - 評価と支援の実際 -. 医歯薬出版, 2020					
大熊 明・加藤朋子：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版. 医学書院, 2017					
参考書					
実務経験に関する内容					
柿本：医療・介護療養病床、訪問看護ステーションで地域における作業療法の実践を行ってきた。					
田中：病院・施設にて、作業療法対象者の状況把握から治療のための基礎として見聞を深めてきた。					

授業科目名	地域作業療法技術学			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ タナカ マユミ 柿本将平、田中真由美
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	3	時間数	45
授業概要					
生活行為向上マネジメントを用いた模擬事例演習を行う。					
GIO (一般目標)					
個人および地域環境も含めた多角的なアセスメントで対象者を捉え、作業療法プログラム立案と実践方法を理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活課題の抽出、支援プログラムにおける目標の設定と支援の過程を説明できる。</li> <li>地域環境評価の視点について説明できる。</li> <li>身近な地域をもとに地域作業療法の実践を説明できる。</li> </ul>					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	地域作業療法の枠組み			第16回	事例を通しての面接
第2回	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論①			第17回	事例を通しての観察評価
第3回	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論②			第18回	事例を通しての身体評価
第4回	作業の聞き取り (聞き取り演習) シート解説			第19回	事例を通しての精神評価
第5回	事例紹介・事例の読み込み			第20回	事例を通しての認知機能の評価
第6回	生活行為聞き取りシートのすり合わせ			第21回	事例を通してのADL評価
第7回	課題分析シート (重要性の決定)			第22回	事例を通してのADL評価
第8回	生活行為アセスメントシート作成①			第23回	事例を通してのADL評価
第9回	生活行為アセスメントシート作成②				
第10回	生活行為アセスメントシート作成③				
第11回	生活行為向上プランシート作成①				
第12回	生活行為向上プランシート作成②				
第13回	生活行為向上プランシート作成③				
第14回	事例報告①				
第15回	事例報告②				
成績評価基準					
レポート100%					
総合成績：前期試験＋後期試験で総合的に判定する。					
教科書					
大熊 明・加藤 朋子：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版。医学書院。2017 一般社団法人 日本作業療法士協会 編著：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版。医歯薬出版株式会社。2020					
参考書					
実務経験に関する内容					
柿本：医療・介護療養病床、訪問看護ステーションで地域における作業療法の実践を行ってきた。 田中：病院・施設にて、作業療法対象者の状況把握から治療のための基礎として見聞を深めてきた。					

授業科目名	評価臨床実習			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	4	時間数	180
授業概要					
<p>学外での病院や施設にて、4週間の実習を行います。実習先により対象者の疾患や特性は変わります。学内で学んだ知識・技術を活かし、Ⅰ期目は実際の臨床場面で検査や評価を行い全体像の把握に努めます。またⅡ期目はⅠ期目の概要に加え問題点の抽出から治療プログラムを立案を行います。</p>					
GIO（一般目標）					
<p><b>目標：</b>①職業人・社会人として望ましい態度や行動をとることができる。②学内で学んだ検査測定方法を対象者に合わせて測定することができる。③対象者の全体像を把握できる。</p>					
SBO（行動目標）					
<p><b>Ⅰ期目の目標：</b>①：a.報連相が行える b.提出物や時間など期限を守ることができる c.適切なコミュニケーションをとることができる ②：a.各検査の目的、適応、注意点を踏まえ実施できる。③：a.作業療法評価を統合させ解釈が行える。</p>					
授業回数	授業内容				
1単位	<p>各臨床実習施設の指導者より指導を仰ぐ。時間数は1単位45時間（1週間：5日×8時間+5時間の家庭学習）とする。課題以外は自己学習として実施してもよいが、実習に支障のない範囲で行うこととする。</p> <p>各臨床実習施設にて可能な限り検査測定や見学を行い、目標達成できるように努める。各臨床実習施設にて可能な限り検査測定や見学を行う。また、指導者の臨床推論過程を見学・模倣・実践のなかから経験して、目標達成に努める。</p>				
2単位					
3単位					
4単位					
成績評価基準					
<p>実習前OSCE（10%）+実習評価表（40%）+実習後OSCE（20%）+レジメ（20%）+報告会（10%）=100% 各期の内訳として上記に示す。</p>					
教科書・参考書					
<p>今まで購入した教科書で必要だと思うもの。実習準備期間に集めた参考文献。</p>					
実務経験に関する内容					
<p>保健・医療・福祉等、臨床現場における作業療法士の指導のもと、対象者の状態等に関する評価を見学・模倣・実施し、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案について学ぶ実習を行う。</p>					

授業科目名	地域臨床実習			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト ケン 山本 健
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
本校で学習した知識と技術・技能および態度を、臨床実習施設での作業療法体験を通じて統合する。					
GIO (一般目標)					
<p>実習生が臨床実習指導者のもとに、作業療法における通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについての専門職としての認識を高めることである。</p> <p>なお、本実習は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションでの実習となります。</p>					
SBO (行動目標)					
<p>1. 職業人として望ましい態度や行動をとることができる 4. 記録・報告をすることが出来る</p> <p>2. 基本的臨床技能を身につけることができる</p> <p>3. 許容される臨床技能を実践できる</p>					
授業回数	授業内容				
	<p>臨床実習施設での検査測定実習 40時間</p> <p>地域臨床実習事前・事後に関するセミナー及び評価 5時間</p> <p>※なお、臨床実習5科目のうち2/3以上は医療提供施設での実習となります。</p> <p>※また、医療提供施設において行う実習時間のうち1/2以上は病院・診療所で実施します。</p>				
成績評価基準					
<p>実習施設指導者からの評価 (70%)、事前OSCE (10%)</p> <p>実習報告会 (20%)</p>					
教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
<p>保健・医療・福祉等、臨床現場における作業療法士の指導のもと、「訪問リハビリテーション」「通所リハビリテーション」における作業療法業務、対象者への対応等について見学する実習を行う。</p>					